

第3章 加工食品の輸出入動向

利用者のために

加工食品の輸入動向 総論

加工食品の輸出動向 総論

輸入の部

- 1 畜産食料品
- 2 水産食料品
- 3 農産食料品
- 4 製穀粉加工品
- 5 糖類
- 6 菓子
- 7 飲料
- 8 調味料
- 9 加工油脂
- 10 その他の調製食料品
- 11 酒類

輸出の部

- 1 畜産食料品
- 2 水産食料品
- 3 農産食料品
- 4 製穀粉加工品
- 5 糖類
- 6 菓子
- 7 飲料
- 8 調味料
- 9 加工油脂
- 10 その他の調製食料品
- 11 酒類

利用者のために

本調査の目的

本調査は、財務省「貿易統計」から、加工食品に分類される製品についての月別輸入数量、輸出数量指数及び輸入金額、輸出金額を収集し、品目別に集計した後、輸入数量指数、輸出数量指数および輸入価格、輸出価格を算出することによって、加工食品の輸出入動向を明らかにするものである。

加工食品の対象範囲

本調査で対象とする加工食品は、貿易統計の調製食料品に分類されているもので、付加価値が高く、保存性のあるもの(単に冷凍したもの、塩蔵したものは除く)及び飲料、酒類とし、具体的には下記のように分類している(表 3-1)。

表 3-1 加工食品の関税分類

部門	HS 番号
畜産部門	1601～1603-00-010
水産部門	1603-00-090～1605-90-299
農産部門	2001～2008
製穀粉加工品部門	1901-20～1904、1905-10-000、1905-20-000 1905-40-000、1905-90
糖類	1701～1703
菓子部門	1704、1806、1905 (ただし-10-000、-20-000、-40-000、-90-100 を除く)
飲料部門	2009、2201、2202、2101-11-210、2101-12-121、2101-20-110
調味料部門	2103、2209-00-000、2922-42-100
加工油脂	1517
その他調製食品	1901-10、1901-20-111～117、20-211、219、1901-90-131～229
酒類部門	2101-11～20 (ただし飲料部門を除く)、2104-10、2106 2203～2208

輸入数量指数、輸出数量指数

輸入数量指数は、対象品目別に基準数量で比較月の輸入量を除し、品目指数を計算し、次にこれらの品目指数を部門別、さらに総合として品目ウェイトで加重平均して算出する。基準数量と品目ウェイトはあらかじめ算定し、固定しておき、ラスパイレレス式指数算式（加重相対法）を用いて算出する。この指数算式は以下のように定義される。

ラスパイレレス式（加重相対法）

$$Q_t = \frac{\sum_{i=1}^n q_{it} w_{0i}}{\sum_{i=1}^n q_{0i} w_{0i}} \times 100.0$$

q : 輸入量、輸出量

w : 輸入額ウェイト、輸出額ウェイト

i : 採用品目を示す添字

0 : 基準時を示す添字

t : 比較時を示す添字

輸入数量指数の基準年は平成17年とし、基準数量は対象品目ごとの17年月平均輸入数量(q_{0i})とする。ウェイトは、平成17年における輸入金額を基準とする。輸出についても同様である。

輸入価格、輸出価格

輸入価格及び輸出価格は、各品目ごとの輸入金額、輸出金額を輸入量、輸出量で除した値（それぞれCIF価格、FOB価格）である。

用語の解説

寄与度 = 各部門指数（当年指数 - 前年指数） × ウェイト
 ÷（総合指数（前年指数） × ウェイト） × 100.0

本報告書では上昇、低下、増加、減少の表現区分は次のようにしている。

前年並み	±1%未満
わずか	±1～3%未満
やや	±3～6%未満
かなりの程度	±6～11%未満
かなり大きく	±11～16%未満
大幅に	±16%以上

加工食品の輸入動向 総論

平成 21 年における加工食品（総合）の輸入数量指数（平成 17 年=100）は 91.6 で対前年比▲1.4%とわずかに減少した。平成 19 年までは順調に拡大してきたものの、平成 20 年には原料である穀物や農産物が高騰したことから、減少に転じている。一方、輸入額は約 1 兆 2,904 億円で対前年比▲13.6%とかなり大きく減少している。これは、輸入価格は 99.3 で対前年比▲11.9%と円高の進行も相まってかなり大きく低下したことに起因している。

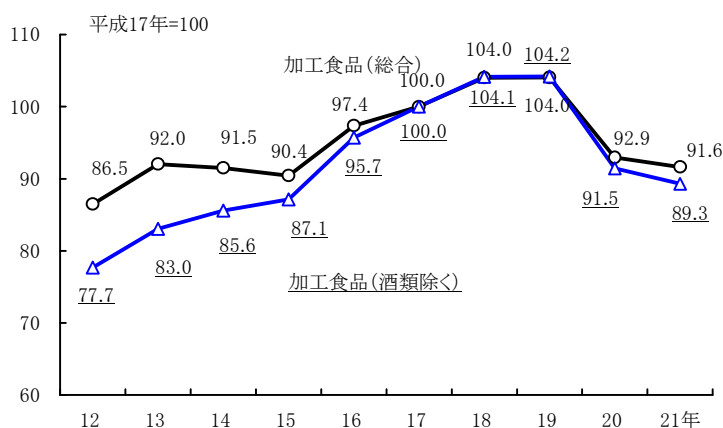
また、加工食品（酒類を除く）の輸入数量指数は 89.3 で対前年比▲2.3%とわずかに減少した。また、輸入額は約 1 兆 1,165 億円で対前年比▲12.3%とかなり大きく減少、輸入価格は 101.5 で対前年比▲10.2%とかなりの程度低下した。

輸入数量指数を分野別にみると、加工油脂が大幅に増加し、酒類はやや増加した。一方、飲料がかなり大きく減少し、糖類はかなりの程度減少し、農産加工品がやや減少し、菓子、調味料がわずかに減少した。また、水産加工品、製穀粉加工品、畜産加工品、その他の調製食料品は前年並みであった。

輸入額について分野別にみると、飲料、酒類、菓子、その他の調製食料品が大幅に減少し、製穀粉加工品、糖類がかなり大きく減少し、水産加工品、農産加工品がかなりの程度減少し、畜産加工品がやや減少し、調味料がわずかに減少した。また、加工油脂は前年並みであった。

輸入価格について分野別にみると、酒類、加工油脂、その他の調製食料品が大幅に低下し、製穀粉加工品、飲料、菓子、加工油脂、水産加工品がかなりの程度低下し、畜産加工品、糖類、農産加工品がやや低下した。調味料は前年並みであった。

図3-1 加工食品の輸入数量指数の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-2 加工食品の輸入数量指数の対前年増減率、寄与度

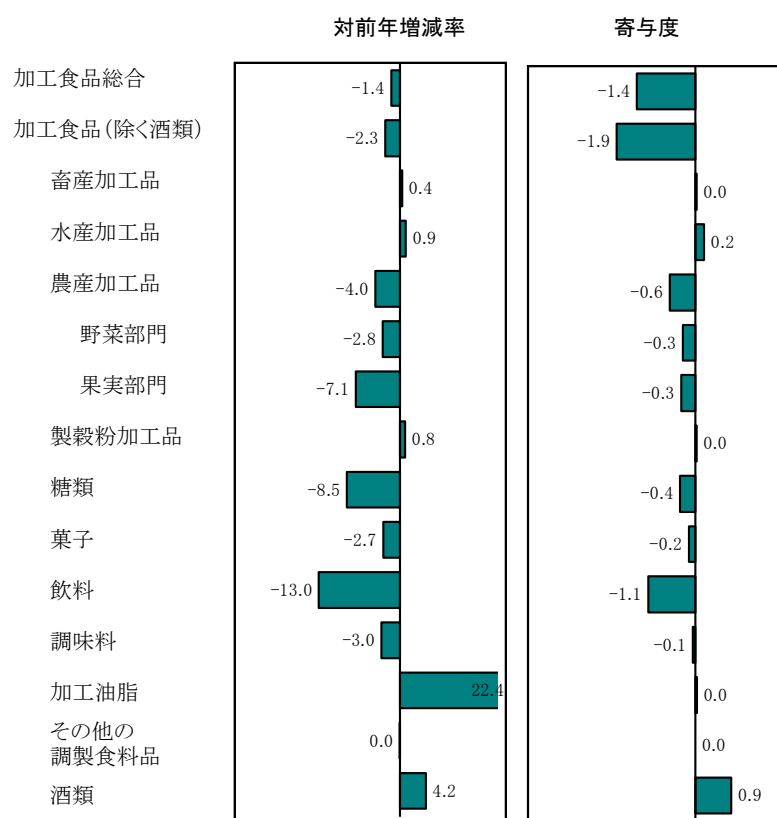
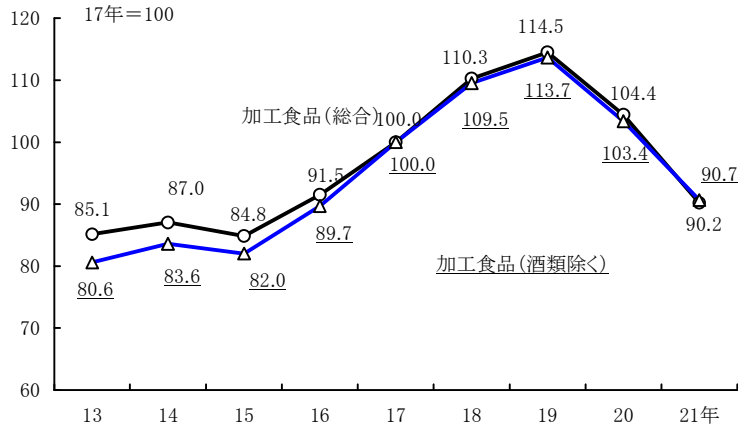


表3-2 加工食品の輸入数量指数の推移

	ウェイト (17年)	輸入数量指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 20/19年
		17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年	
加工食品総合	10,000.0	100.0	104.0	104.0	92.9	91.6	2.7	4.0	0.0	▲ 10.7	▲ 1.4	▲ 1.4
加工食品(除く酒類)	8,689.9	100.0	104.1	104.2	91.5	89.3	4.5	4.1	0.0	▲ 12.2	▲ 2.3	▲ 1.9
畜産加工品	1,944.6	100.0	104.1	107.4	94.7	95.0	19.2	4.1	3.2	▲ 11.9	0.4	0.0
水産加工品	1,903.1	100.0	106.7	101.9	84.0	84.8	▲ 7.7	6.7	▲ 4.5	▲ 17.6	0.9	0.2
農産加工品	1,431.1	100.0	108.5	104.5	91.6	88.0	▲ 1.5	8.5	▲ 3.7	▲ 12.3	▲ 4.0	▲ 0.6
野菜部門	977.4	100.0	113.1	109.3	96.5	93.8	▲ 5.3	13.1	▲ 3.3	▲ 11.7	▲ 2.8	▲ 0.3
果実部門	453.6	100.0	98.7	94.1	81.1	75.3	7.6	▲ 1.3	▲ 4.6	▲ 13.8	▲ 7.1	▲ 0.3
製穀粉加工品	420.1	100.0	99.4	88.4	81.0	81.7	1.0	▲ 0.6	▲ 11.0	▲ 8.4	0.8	0.0
糖類	367.3	100.0	95.5	106.7	96.3	88.1	▲ 0.6	▲ 4.5	11.7	▲ 9.7	▲ 8.5	▲ 0.4
菓子	567.5	100.0	103.9	106.0	103.4	100.6	0.8	3.9	2.0	▲ 2.4	▲ 2.7	▲ 0.2
飲料	823.2	100.0	106.2	113.5	102.6	89.2	14.0	6.2	6.9	▲ 9.6	▲ 13.0	▲ 1.1
調味料	213.6	100.0	105.0	104.5	97.6	94.7	8.5	5.0	▲ 0.4	▲ 6.6	▲ 3.0	▲ 0.1
加工油脂	16.1	100.0	104.2	104.5	116.2	142.2	24.0	4.2	0.3	11.2	22.4	0.0
その他の調製食料品	1,003.4	100.0	96.7	98.7	84.0	84.0	12.5	▲ 3.3	2.0	▲ 14.9	▲ 0.0	▲ 0.0
酒類	1,310.1	100.0	103.2	103.1	102.7	107.0	▲ 7.7	3.2	▲ 0.1	▲ 0.4	4.2	0.9

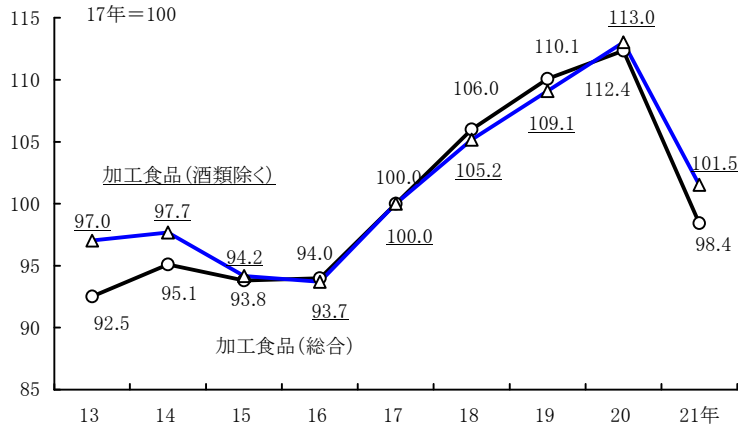
資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-3 加工食品の輸入額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-4 加工食品の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

表3-3 加工食品の輸入額の推移

	ウェイト (17年)	輸入額 (億円)					対前年増減率 (%)				
		17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
加工食品総合	10,000.0	14,307	15,775	16,385	14,939	12,904	9.3	10.3	3.9	▲ 8.8	▲ 13.6
加工食品(除く酒類)	8,689.9	12,313	13,489	13,997	12,729	11,165	11.5	9.5	3.8	▲ 9.1	▲ 12.3
畜産加工品	1,944.6	2,050	2,291	2,381	2,226	2,107	34.3	11.8	4.0	▲ 6.5	▲ 5.3
水産加工品	1,903.1	2,896	3,119	3,011	2,536	2,267	▲ 1.4	7.7	▲ 3.5	▲ 15.8	▲ 10.6
農産加工品	1,431.1	2,178	2,365	2,434	2,148	1,968	9.2	8.6	2.9	▲ 11.7	▲ 8.4
野菜部門	977.4	1,487	1,620	1,676	1,480	1,392	8.8	8.9	3.5	▲ 11.7	▲ 5.9
果実部門	453.6	690	745	758	668	576	10.1	7.9	1.7	▲ 11.8	▲ 13.8
製穀粉加工品	420.1	639	672	662	689	589	4.8	5.0	▲ 1.4	4.1	▲ 14.4
糖類	367.3	559	741	796	687	594	23.6	32.6	7.5	▲ 13.7	▲ 13.6
菓子	567.5	864	955	1,039	1,019	854	2.0	10.5	8.8	▲ 1.9	▲ 16.2
飲料	823.2	1,253	1,463	1,685	1,519	1,135	12.9	16.8	15.2	▲ 9.8	▲ 25.3
調味料	213.6	325	374	392	375	366	14.5	15.1	4.7	▲ 4.1	▲ 2.4
加工油脂	16.1	25	23	26	27	27	29.3	▲ 6.7	14.5	3.9	▲ 0.0
その他の調製食料品	1,003.4	1,527	1,488	1,571	1,501	1,257	20.7	▲ 2.6	5.6	▲ 4.5	▲ 16.2
酒類	1,310.1	1,993	2,286	2,388	2,211	1,738	▲ 2.7	14.7	4.5	▲ 7.4	▲ 21.4

資料：財務省「貿易月表」

加工食品の輸出動向 総論

平成21年における加工食品（総合）の輸出数量指数（平成17年＝100）は110.3で対前年比▲8%とかなりの程度減少した。これは世界的な経済危機により、輸入国の需要が低迷したことに加え、円高により輸出価格が上昇したことが要因とみられる。また、輸出額は約1,822億円で対前年比▲5.9%とやや減少し、輸出価格は132.5で、円高の進行などから、対前年比8.2%とかなりの程度上昇した。

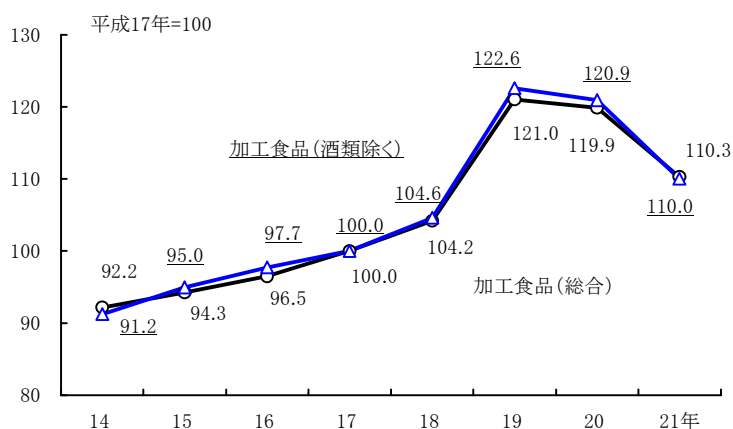
加工食品（酒類を除く）の輸出数量指数は110.0で対前年比▲9.0%とかなりの程度減少した。また、輸出額は約1,662億円で対前年比▲5.9%とやや減少、輸出価格は108.0で対前年比3.4%とやや上昇した。

輸出数量指数について分野別にみると、畜産加工品が大幅に増加し、糖類がかなり大きく増加し、酒類がやや増加した。一方、飲料、加工油脂、農産加工品、菓子が大幅に減少し、製穀粉加工品がかなり大きく減少し、水産加工品がやや減少した。また、調味料は前年並みであった。

輸出額について分野別にみると、畜産加工品が大幅に増加し、その他の調製食料品がかなり大きく増加し、調味料がわずかに増加した。一方、飲料、加工油脂、菓子、農産加工品が大幅に減少し、糖類がかなり大きく減少し、製穀粉加工品、水産加工品がかなりの程度減少し、酒類がやや減少した。

輸出価格について分野別にみると、加工油脂が大幅に上昇し、その他の調製食料品、農産加工品、畜産加工品がかなりの程度上昇し、菓子、飲料、製穀粉加工品がやや上昇し、調味料がわずかに上昇した。一方、糖類が大幅に低下し、酒類がかなりの程度低下し、水産加工品がわずかに低下した。

図3-5 加工食品の輸出数量指数の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-6 加工食品の輸出数量指数の対前年増減率、寄与度

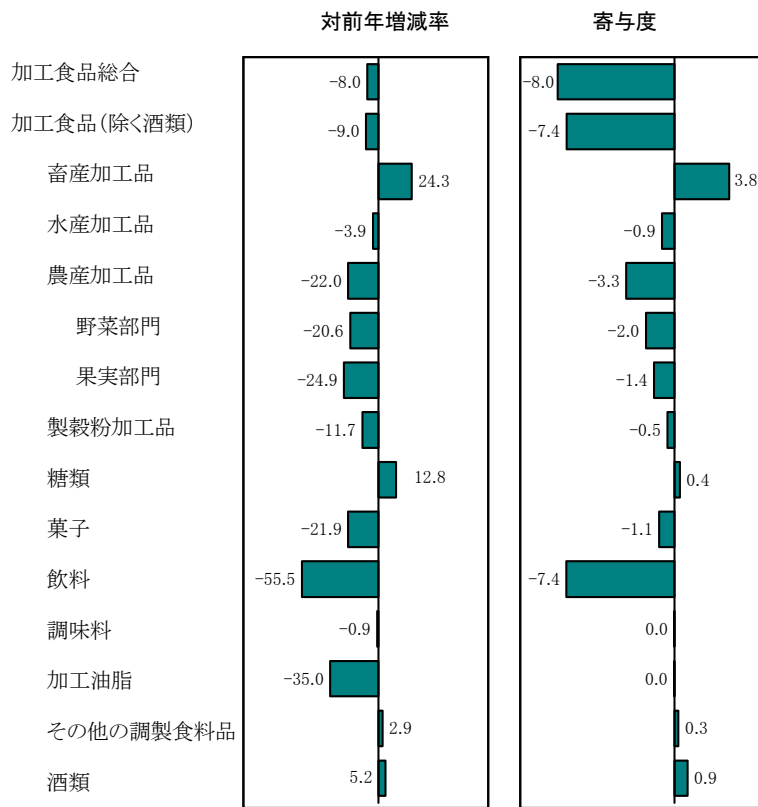
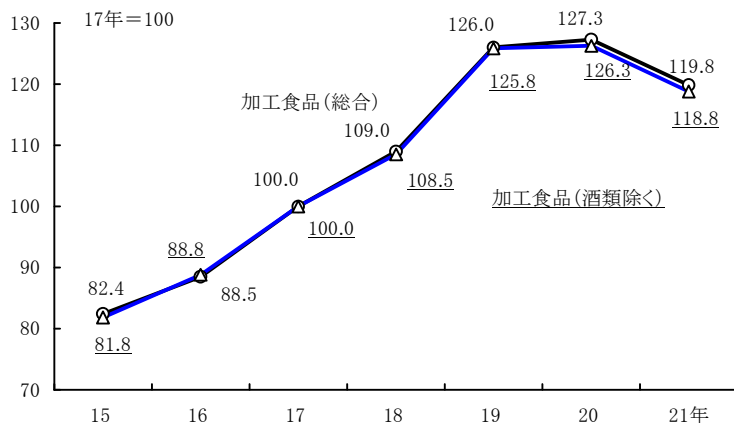


表3-4 加工食品の輸出数量指数の推移

	ウェイト (17年)	輸出数量指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 20/19年
		17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年	
加工食品総合	10,000.0	100.0	104.2	121.0	119.9	110.3	3.6	4.2	16.2	▲1.0	▲8.0	▲8.0
加工食品(除く酒類)	9,198.2	100.0	104.6	122.6	120.9	110.0	2.3	4.6	17.2	▲1.4	▲9.0	▲7.4
畜産加工品	103.7	100.0	144.9	265.0	200.6	249.3	▲22.8	44.9	82.9	▲24.3	24.3	3.8
水産加工品	2,707.7	100.0	98.3	113.7	107.7	103.5	3.2	▲1.7	15.6	▲5.3	▲3.9	▲0.9
農産加工品	257.2	100.0	108.9	124.4	115.2	89.9	▲4.2	8.9	14.3	▲7.4	▲22.0	▲3.3
野菜部門	179.8	100.0	100.2	108.4	110.5	87.8	▲8.2	0.2	8.2	1.9	▲20.6	▲2.0
果実部門	77.4	100.0	129.0	161.5	126.1	94.7	6.6	29.0	25.2	▲21.9	▲24.9	▲1.4
製穀粉加工品	687.3	100.0	113.1	126.1	122.6	108.3	▲0.2	13.1	11.6	▲2.8	▲11.7	▲0.5
糖類	158.0	100.0	106.9	226.8	84.9	95.9	21.5	6.9	112.1	▲62.6	12.8	0.4
菓子	1,012.9	100.0	104.8	117.4	111.9	87.4	11.5	4.8	12.0	▲4.6	▲21.9	▲1.1
飲料	532.9	100.0	107.6	133.9	205.0	91.2	4.7	7.6	24.5	53.1	▲55.5	▲7.4
調味料	1,561.4	100.0	106.1	113.5	105.9	105.0	▲0.1	6.1	7.0	▲6.7	▲0.9	▲0.0
加工油脂	17.2	100.0	91.3	91.4	99.9	64.9	▲4.9	▲8.7	0.1	9.3	▲35.0	▲0.0
その他の調製食料品	2,160.0	100.0	105.4	124.5	131.0	134.8	0.7	5.4	18.1	5.2	2.9	0.3
酒類	801.8	100.0	99.3	103.0	107.7	113.3	21.5	▲0.7	3.7	4.6	5.2	0.9

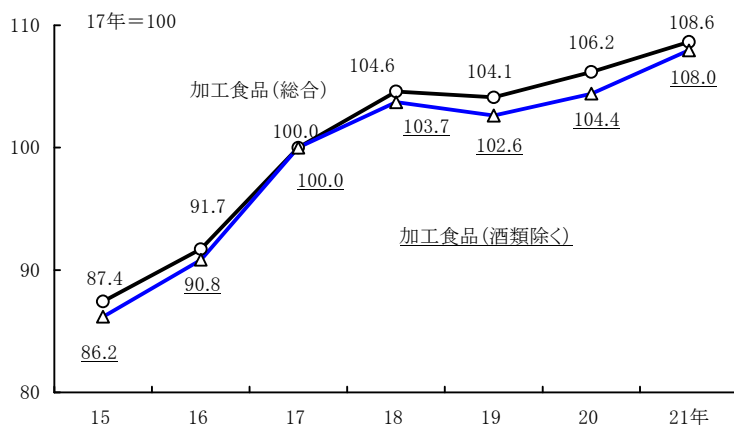
資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-7 加工食品の輸出額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-8 加工食品の輸出価格の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

表3-5 加工食品の輸出額の推移

	ウェイト (17年)	輸出額 (億円)					対前年増減率 (%)				
		17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
加工食品総合	10,000.0	1,521	1,657	1,916	1,936	1,822	13.0	9.0	15.6	1.0	▲ 5.9
加工食品(除く酒類)	9,198.2	1,399	1,518	1,760	1,766	1,662	12.6	8.5	16.0	0.3	▲ 5.9
畜産加工品	103.7	16	20	30	34	45	▲ 5.4	24.5	51.0	15.3	32.7
水産加工品	2,707.7	412	466	574	495	463	29.8	13.2	23.2	▲ 13.8	▲ 6.5
農産加工品	257.2	39	43	46	45	38	8.4	9.5	6.4	▲ 1.7	▲ 16.2
野菜部門	179.8	27	29	30	30	25	8.3	4.6	5.9	0.5	▲ 17.8
果実部門	77.4	12	14	15	14	13	8.8	21.0	7.4	▲ 5.9	▲ 12.8
製穀粉加工品	687.3	105	118	132	137	125	3.4	12.8	12.0	3.5	▲ 8.6
糖類	158.0	24	24	27	17	15	24.4	1.7	10.7	▲ 37.4	▲ 13.5
菓子	1,012.9	154	158	177	183	150	18.1	2.5	12.4	3.3	▲ 17.9
飲料	532.9	81	90	116	166	77	7.1	11.3	28.6	43.0	▲ 53.7
調味料	1,561.4	237	251	269	266	271	1.6	5.7	7.2	▲ 1.2	2.0
加工油脂	17.2	3	3	3	3	2	1.9	8.4	▲ 1.8	14.8	▲ 23.1
その他の調製食料品	2,160.0	328	345	387	420	475	6.2	5.0	12.0	8.8	13.0
酒類	801.8	122	139	156	169	160	17.5	14.2	11.9	8.7	▲ 5.4

資料：財務省「貿易月表」

輸入の部

1 畜産加工品

平成 21 年の畜産加工品の輸入数量指数（平成 17 年=100）は、95.0 で、対前年比 0.4%と前年並みであった。また、平成 20 年の畜産加工品の輸入額は、2,107 億円で、対前年比▲5.3%とやや減少した（図 3-9）。

品目別にみると、牛肉調製品、れん乳類が大幅に増加し、ソーセージ、豚肉調製品がかなりの程度増加した。一方、ハム・ベーコン、コンビーフ、ビーフジャーキーが大幅に減少した（表 3-6）。

食肉加工品は回復傾向

平成 21 年の牛肉調製品の輸入量は、対前年比 41.6%と大幅に増加した。また、豚肉調製品の輸入量も対前年比 10.6%とかなりの程度増加、ソーセージの輸入量は、対前年比 10.7%とかなりの程度増加した。一方、ハム・ベーコンの輸入量は、対前年比▲22.0%と大幅に減少した。

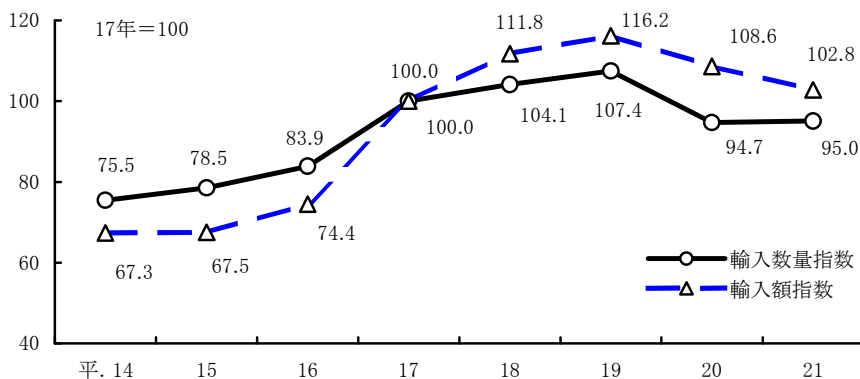
昨年は中国産冷凍ギョウザ事件により、一時的に中国を中心として食肉加工品の輸入量が減少したが、今年は回復傾向にある。ただし、中国からの輸入量は一昨年のレベルまでは回復しておらず、アメリカやカナダなどからの輸入が増えている。

乳製品の輸入減は下げ止まり

平成 21 年のバターの輸入量は、対前年比▲98.0%と大幅に減少、粉乳類の輸入量は、対前年比▲12.2%とかなり大きく減少した。また、ナチュラルチーズの輸入量は、対前年比▲1.6%とわずかに減少したが、プロセスチーズの輸入量は、対前年比 8.2%とかなりの程度増加した。

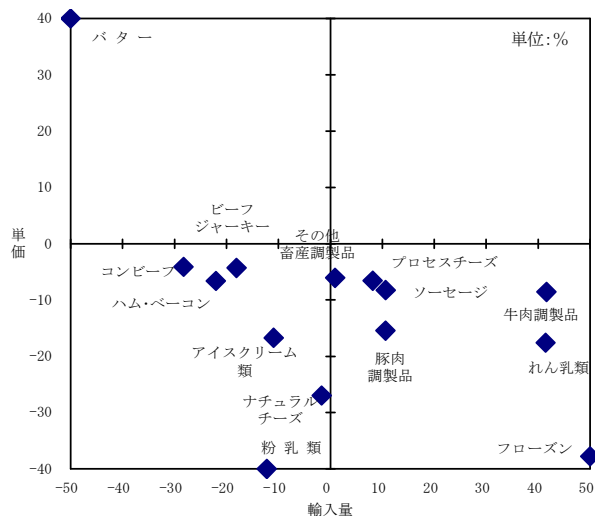
バターが大幅に減少したのは、昨年までの需給逼迫のため緊急輸入がなくなったためである。また、ナチュラルチーズ等の乳製品は、昨年、飼料価格の高騰による価格上昇により輸入量が大きく減少していたが、今年は落ち着きを取り戻している。

図3-9 畜産加工品の輸入数量、輸入額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-10 畜産加工品の輸入量と価格の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-6 畜産加工品の輸入量の推移

品目	年次					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
ソーセージ	33.7	40.7	43.4	36.8	40.7	437	434	455	475	436
ハム・ペーコン	3.5	4.4	4.5	4.0	3.1	1,060	1,086	1,185	1,140	1,065
コンビーフ	1.3	1.1	1.2	0.9	0.6	454	536	567	562	539
ビーフジャーキー	0.4	0.6	0.8	0.8	0.6	2,116	2,060	2,212	2,118	2,026
牛肉調製品	21.8	17.0	11.0	8.2	11.6	497	486	515	483	442
豚肉調製品	132.6	156.4	163.9	151.5	167.6	324	331	345	331	280
その他畜産調製品	339.7	355.8	355.0	318.1	321.0	367	389	404	442	415
れん乳類	1.6	1.5	1.5	1.2	1.7	311	322	359	477	393
粉乳類	34.0	28.5	35.2	32.0	28.1	224	234	364	380	220
バター	5.5	3.9	11.4	18.2	0.4	318	335	432	437	617
プロセスチーズ	8.6	9.5	9.0	8.2	8.9	545	557	601	705	659
ナチュラルチーズ	203.1	197.9	216.1	178.3	175.3	376	398	432	548	400
アイスクリーム類	20.4	18.9	14.5	8.9	7.9	318	336	352	416	347
フロロズン	-	0.0	0.0	0.1	0.2	252	251	233	360	224
対前年増減率 (%)										
ソーセージ	16.9	20.8	6.6	▲15.2	10.7	4.2	▲0.7	5.1	4.3	▲8.2
ハム・ペーコン	14.2	27.2	2.3	▲12.4	▲22.0	6.9	2.4	9.1	▲3.8	▲6.6
コンビーフ	15.6	▲12.8	0.1	▲21.7	▲28.2	15.0	17.9	5.8	▲0.9	▲4.1
ビーフジャーキー	15.2	39.4	33.5	▲1.9	▲18.1	2.4	▲2.6	7.4	▲4.3	▲4.3
牛肉調製品	48.1	▲22.1	▲35.1	▲25.5	41.6	13.8	▲2.1	6.0	▲6.2	▲8.6
豚肉調製品	23.3	17.9	4.8	▲7.6	10.6	1.9	2.4	4.1	▲4.1	▲15.4
その他畜産調製品	43.0	4.8	▲0.2	▲10.4	0.9	▲1.3	5.8	3.8	9.6	▲6.1
れん乳類	▲1.4	▲9.7	3.9	▲20.2	41.4	11.1	3.7	11.3	32.9	▲17.6
粉乳類	▲7.7	▲16.1	23.3	▲8.9	▲12.2	12.1	4.7	55.1	4.6	▲42.3
バター	▲15.9	▲29.0	189.9	59.4	▲98.0	22.3	5.1	29.2	1.0	41.3
プロセスチーズ	11.5	10.9	▲5.5	▲8.7	8.2	▲0.9	2.2	7.8	17.5	▲6.6
ナチュラルチーズ	▲3.7	▲2.6	9.2	▲17.5	▲1.6	11.1	5.9	8.5	26.8	▲27.0
アイスクリーム類	▲7.5	▲7.5	▲23.2	▲38.9	▲10.9	▲2.7	5.6	4.5	18.4	▲16.7
フロロズン	-	-	313.9	669.0	149.8	-	-	▲7.2	54.7	▲37.8

資料：財務省「貿易月表」

2 水産加工品

平成 21 年の水産加工品の輸入数量指数（平成 17 年=100）は、84.8 で、対前年比 0.9%と前年並みであった。また、平成 21 年の水産加工品の輸入額は、2,267 億円で、対前年比▲10.6%とかなりの程度減少した（図 3-11）。

品目別にみると、さけ缶、かつお缶、加工うなぎが大幅に増加し、さば、かたくちいわしがかなり大きく増加し、にしんがかなりの程度増加し、いわし缶がやや増加し、いか調製品がわずかに増加した。一方、かつお節、かに缶が大幅に減少し、いわし調製品、あわび調製品がかなり大きく減少し、かつお・まぐろ類調製品、かに調製品がかなりの程度減少し、まぐろ缶、魚卵調製品がやや減少し、その他水産調製品がわずかに減少した（表 3-7）。

水産缶詰はまぐろ缶を除き増加

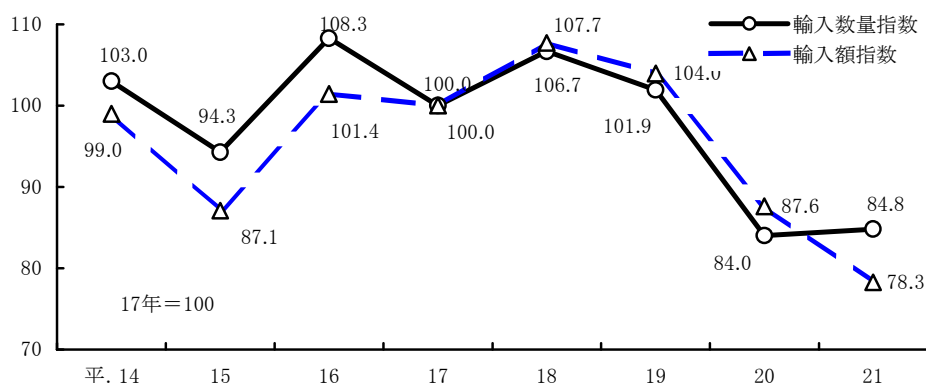
平成 21 年のかつお缶の輸入量は、対前年比 21.4%と大幅に増加し、さけ缶も対前年比 24.1%と大幅に増加した。一方、まぐろ缶は、対前年比▲4.5%とやや減少した。

ここ数年続いた国際的な需要増による原料価格の高騰が一段落し、景気低迷などの影響もあり輸入価格が軒並み低下したことが輸入量の増加につながった。

加工うなぎは、中国からの輸入が回復

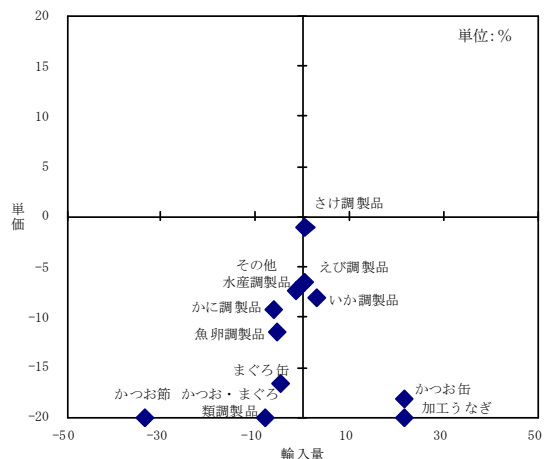
平成 21 年の加工うなぎの輸入量は、対前年比 21.6%と大幅に増加した。一方、魚卵調製品は、対前年比▲5.3%とやや減少したが、昨年、一昨年と大きく減少したのに比べ下げ幅は小さくなっている。加工うなぎは、昨年中国からの輸入が大幅に減少したが、今年は一昨年の 3分の 2 程度まで回復した。

図3-11 水産加工品の輸入数量、輸入額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-12 水産加工品の輸入量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-7 水産加工の輸入量の推移

品目	年次					年次				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
さけ缶	0.7	1.3	1.3	0.4	0.5	522	493	617	837	711
さけ調製品	9.2	8.6	9.6	10.0	10.1	657	714	757	703	695
にしん	2.8	3.2	2.7	2.2	2.4	337	372	384	383	366
いわし缶	0.9	0.6	0.5	0.5	0.5	518	622	547	578	536
いわし調製品	2.3	2.7	2.5	2.0	1.8	320	345	361	326	316
かつお缶	4.3	4.9	7.8	9.7	11.8	414	440	479	564	462
まぐろ缶	29.5	28.6	26.0	24.2	23.1	410	434	481	535	445
かつお・まぐろ類調製品	9.8	7.3	8.7	9.9	9.1	401	436	502	551	419
かつお節	5.7	7.1	6.0	8.4	5.6	441	449	518	726	502
さば	10.0	10.5	9.7	5.8	6.5	529	579	592	596	572
かたくちいわし	3.3	1.9	1.8	1.0	1.1	971	982	1,116	1,216	1,098
加工うなぎ	32.4	35.5	35.4	16.8	20.5	1,542	1,555	1,445	1,491	1,130
魚卵調製品	13.4	17.1	14.2	10.2	9.7	1,754	1,681	1,628	1,795	1,587
かに缶	0.3	0.2	0.3	0.2	0.1	727	933	1,615	1,272	835
かに調製品	16.2	16.1	14.5	14.8	13.9	1,639	1,458	1,608	1,712	1,553
えび調製品	60.2	69.4	66.9	64.3	64.7	870	895	897	855	799
いか調製品	44.1	47.4	49.8	43.3	44.5	471	458	423	415	381
あわび調製品	0.5	0.4	0.3	0.3	0.2	5,770	6,239	6,699	5,716	4,181
その他水産調製品	157.9	159.2	150.4	131.1	129.2	482	501	521	507	469
対前年増減率 (%)										
さけ缶	9.5	103.5	▲ 4.3	▲ 68.6	24.1	3.6	▲ 5.6	25.3	35.6	▲ 15.1
さけ調製品	12.4	▲ 6.1	10.8	4.9	0.7	13.0	8.8	5.9	▲ 7.1	▲ 1.1
にしん	4.5	14.1	▲ 15.7	▲ 17.6	7.6	7.0	10.2	3.2	▲ 0.2	▲ 4.3
いわし缶	128.4	▲ 34.4	▲ 18.2	▲ 4.3	4.5	▲ 24.5	20.0	▲ 12.0	5.6	▲ 7.2
いわし調製品	2.4	14.3	▲ 5.6	▲ 19.7	▲ 11.1	0.3	7.8	4.8	▲ 9.8	▲ 3.1
かつお缶	3.2	12.4	59.4	24.7	21.4	5.9	6.1	8.8	17.8	▲ 18.1
まぐろ缶	▲ 0.1	▲ 3.0	▲ 8.9	▲ 7.2	▲ 4.5	12.6	5.8	10.8	11.1	▲ 16.7
かつお・まぐろ類調製品	10.0	▲ 25.3	18.7	13.6	▲ 8.0	6.1	8.9	15.0	9.8	▲ 23.9
かつお節	14.7	24.4	▲ 16.0	40.9	▲ 33.5	4.3	1.8	15.3	40.1	▲ 30.9
さば	5.9	5.3	▲ 7.5	▲ 40.4	11.7	13.4	9.3	2.2	0.8	▲ 4.1
かたくちいわし	▲ 40.3	▲ 42.8	▲ 5.0	▲ 43.1	11.4	8.2	1.2	13.6	9.0	▲ 9.7
加工うなぎ	▲ 33.5	9.5	▲ 0.2	▲ 52.5	21.6	14.5	0.8	▲ 7.1	3.2	▲ 24.2
魚卵調製品	▲ 12.0	27.7	▲ 17.2	▲ 27.9	▲ 5.3	5.5	▲ 4.2	▲ 3.2	10.2	▲ 11.6
かに缶	▲ 33.2	▲ 15.8	39.9	▲ 19.0	▲ 59.7	▲ 15.7	28.3	73.0	▲ 21.3	▲ 34.3
かに調製品	8.9	▲ 0.5	▲ 10.0	2.0	▲ 6.2	▲ 4.3	▲ 11.1	10.3	6.5	▲ 9.3
えび調製品	4.2	15.2	▲ 3.5	▲ 3.9	0.6	▲ 3.6	2.9	0.2	▲ 4.7	▲ 6.5
いか調製品	4.5	7.5	5.2	▲ 13.2	3.0	10.9	▲ 2.7	▲ 7.8	▲ 1.8	▲ 8.1
あわび調製品	21.4	▲ 14.6	▲ 29.5	▲ 11.3	▲ 15.6	5.5	8.1	7.4	▲ 14.7	▲ 26.9
その他水産調製品	▲ 1.3	0.8	▲ 5.6	▲ 12.8	▲ 1.4	9.2	4.0	4.0	▲ 2.6	▲ 7.4

資料：財務省「貿易月表」

3 農産加工品

野菜部門

平成 21 年の野菜部門の輸入数量指数（平成 17 年=100）は、93.8 で、対前年比▲2.8%とわずかに低下した。また、平成 21 年の野菜部門の輸入額は、1,392 億円で、対前年比▲5.9%とやや減少した（図 3-13）。

品目別にみると、梅調製品、豆缶がかなりの程度増加し、きのこ他調製品、ヤングコーンコブ、その他の野菜調製品がやや増加し、ピクルス類、調整トマトがわずかに増加した。一方、トマトピューレ・ペースト、調製きのこ計、きのこ缶、たけのこが大幅に減少し、アスパラガスがかなり大きく減少し、豆類計、豆類他調製品がやや減少し、スイートコーンがわずかに減少した（表 3-8）。

梅調製品、ピクルス類は下げ止まる

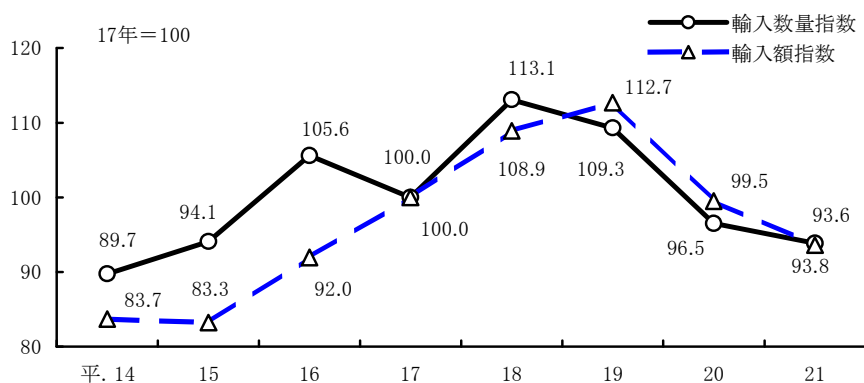
平成 21 年の梅調製品の輸入量は、対前年比 9.4%とかなりの程度増加し、ピクルス類の輸入量は、対前年比 1.2%とわずかに増加した。これは、いずれも輸入量シェアの大半を占める中国からの輸入量が、昨年、一昨年と大幅に減少したものが、今年は増加に転じたことが要因である。

ばれいしょは前年並み、たけのこ、豆類は減少

平成 21 年のばれいしょの輸入量は、対前年比 0.7%と前年並みであった。これは、中国やカナダからの輸入が昨年に引き続き減少したものの、主要輸入相手国であるアメリカからの輸入量がわずかに増加したためである。

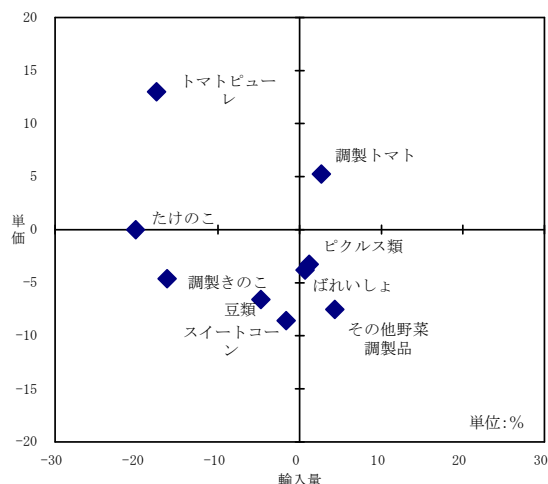
一方、たけのこの輸入量は、対前年比▲20.1%と大幅に減少し、豆類計の輸入量は、対前年比▲4.8%とやや減少した。これは、輸入量シェアで 9 割以上を占める中国からの輸入量が昨年に引き続き減少したことによる。

図3-13 野菜部門の輸入数量、輸入額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-14 農産加工品・野菜部門の輸入量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-8 農産加工品・野菜部門の輸入量の推移

品目	年次					年次				
	輸入量 (千トン)					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
ピクルス類	36.7	38.8	36.4	30.3	30.6	171	165	163	165	159
梅調製品	9.6	10.3	9.0	6.7	7.3	314	352	443	375	325
調整トマト	95.6	92.1	92.9	96.7	99.2	105	104	114	114	120
トマトピューレ・ペースト	110.9	109.6	111.3	109.7	90.5	84	90	101	110	124
調製きのこ計	34.0	34.6	32.8	28.8	24.1	215	236	263	240	229
きのこ缶	18.3	18.3	17.3	16.6	11.5	182	207	234	221	205
きのこ他調製品	15.6	16.4	15.5	12.2	12.6	254	268	294	267	251
ばれいしょ	277.9	298.2	305.4	304.5	306.5	107	114	121	121	117
スイートコーン	51.7	52.5	49.1	48.6	47.8	150	163	166	159	146
ヤングコーンコブ	3.7	3.5	3.4	3.0	3.2	124	132	152	139	127
たけのこ	112.4	115.4	108.8	95.0	75.9	115	122	135	140	140
アスパラガス	4.4	3.0	1.9	1.4	1.2	179	234	382	319	234
豆類計	94.8	95.4	94.8	74.8	71.2	90	95	96	97	91
豆缶	0.1	0.1	0.7	0.7	0.7	188	244	158	166	140
豆類他調製品	94.8	95.4	94.1	74.1	70.5	90	95	96	97	90
その他の野菜調製品	273.8	277.5	259.4	206.6	215.5	192	207	220	215	199
対前年増減率 (%)										
ピクルス類	▲ 3.7	5.8	▲ 6.1	▲ 16.9	1.2	10.5	▲ 3.4	▲ 1.3	0.9	▲ 3.3
梅調製品	17.6	7.3	▲ 13.1	▲ 25.9	9.4	26.4	12.1	25.6	▲ 15.3	▲ 13.4
調整トマト	4.8	▲ 3.7	0.9	4.1	2.6	1.1	▲ 1.1	9.9	0.0	5.3
トマトピューレ・ペースト	11.3	▲ 1.2	1.5	▲ 1.4	▲ 17.5	▲ 0.9	7.7	11.4	8.8	13.0
調製きのこ計	▲ 0.8	1.9	▲ 5.3	▲ 12.2	▲ 16.3	▲ 0.2	9.8	11.2	▲ 8.6	▲ 4.6
きのこ缶	▲ 3.6	▲ 0.4	▲ 5.4	▲ 3.9	▲ 30.7	▲ 2.3	14.2	12.9	▲ 5.8	▲ 7.3
きのこ他調製品	2.8	4.7	▲ 5.3	▲ 21.6	3.4	0.8	5.5	9.8	▲ 9.4	▲ 5.7
ばれいしょ	4.7	7.3	2.4	▲ 0.3	0.7	1.8	6.9	6.2	0.0	▲ 3.8
スイートコーン	▲ 0.4	1.4	▲ 6.3	▲ 1.1	▲ 1.7	7.7	8.7	1.9	▲ 4.1	▲ 8.6
ヤングコーンコブ	▲ 11.2	▲ 3.7	▲ 2.5	▲ 11.8	5.1	7.6	6.4	15.0	▲ 8.3	▲ 9.0
たけのこ	▲ 6.9	2.7	▲ 5.7	▲ 12.6	▲ 20.1	2.5	6.0	10.7	3.6	0.0
アスパラガス	▲ 8.1	▲ 31.9	▲ 35.9	▲ 28.8	▲ 12.0	6.6	30.2	63.6	▲ 16.7	▲ 26.7
豆類計	6.9	0.6	▲ 0.7	▲ 21.1	▲ 4.8	5.6	5.8	0.5	1.5	▲ 6.6
豆缶	▲ 20.8	▲ 31.4	1078.5	▲ 4.2	6.1	14.5	29.6	▲ 35.1	5.1	▲ 15.9
豆類他調製品	6.9	0.6	▲ 1.3	▲ 21.2	▲ 4.9	5.6	5.8	0.1	1.3	▲ 6.5
その他の野菜調製品	9.7	1.4	▲ 6.5	▲ 20.4	4.3	4.1	7.6	6.4	▲ 2.2	▲ 7.5

資料：財務省「貿易月表」

果実部門

平成 21 年の果実部門の輸入数量指数（平成 17 年=100）は、75.3 で、対前年比▲7.1%とかなりの程度低下した。また、平成 21 年の果実部門の輸入額は、576 億円で、対前年比▲13.8%とかなり大きく減少した（図 3-15）。

品目別にみると、落花生調製品、いった落花生、パイナップル調製品が大幅に増加し、ナット調製品がかなり大きく増加し、なし調製品がかなりの程度増加し、ジャム・ゼリー、ストロベリーがわずかに増加した。一方、果実・ナットのピューレ・ペースト、ピーナツバター、あんず、さくらんぼ、その他の果実調製品が大幅に減少し、パイナップル缶がかなり大きく減少し、かんきつ類、なし缶、桃缶、ミックスフルーツがかなりの程度減少し、桃調製品がわずかに減少した（表 3-9）。

落花生関連製品、大幅に増加

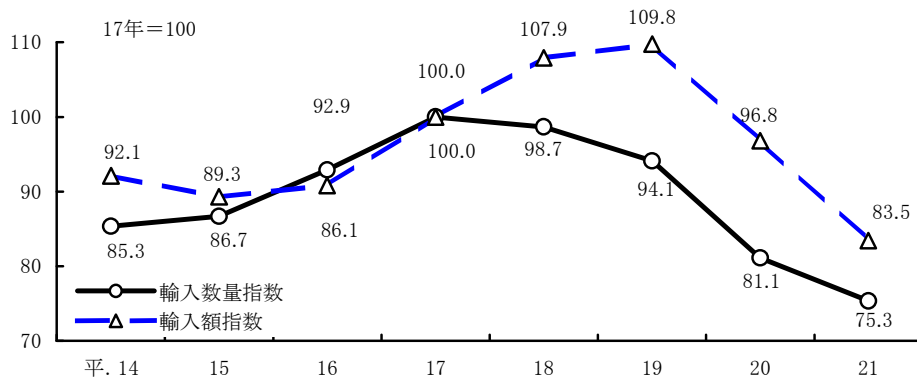
平成 21 年のいった落花生の輸入量は、対前年比 42.7%と大幅に増加し、落花生調製品も、対前年比 16.6%と大幅に増加した。また、ナット調製品の輸入量も、対前年比 15.4%とかなり大きく増加した。

いずれもシェアのほとんどを占める中国からの輸入が、昨年、一昨年と残留農薬の問題で減少していたが、今年は一段落し、輸入量がもとに戻った。

かんきつ類、桃缶など中国産主体ものは引き続き減少

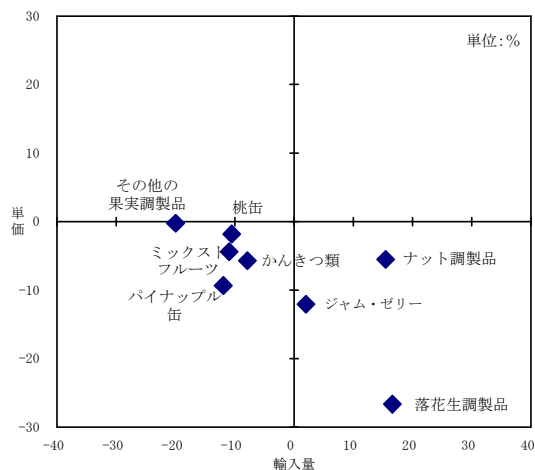
平成 21 年のかんきつ類の輸入量は対前年比▲7.9%、桃缶は対前年比▲10.5%とかなりの程度減少した。安全性への不安により続いた中国産の輸入減少が、果実缶に関しては、今年も下げ止まりがみられない。

図3-15 果実部門の輸入数量、輸入額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-16 農産加工品・果実部門の輸入量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-9 農産加工品・果実部門の輸入量の推移

品目	年次	輸入量 (千トン)					単価 (円/kg)				
		17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
ジャム・ゼリー		15.7	15.7	13.6	10.5	10.7	292	314	345	347	305
果実・ナットのピューレ・ペースト		3.3	5.2	8.8	9.5	4.8	292	216	180	172	174
ピーナツバター		4.6	5.3	5.0	5.5	4.3	188	208	226	284	232
落花生調製品		39.7	43.6	41.5	38.5	44.9	133	139	159	215	158
いった落花生		15.6	15.6	8.8	5.5	7.8	130	136	155	199	156
ナット調製品		31.4	34.1	30.3	24.7	28.5	360	371	383	372	351
パイナップル缶		50.9	44.7	41.7	38.1	33.5	90	94	104	112	102
パイナップル調製品		0.6	0.4	0.5	0.3	0.3	159	194	232	281	226
かんきつ類		76.1	72.1	68.9	58.3	53.7	98	111	112	104	98
なし缶		7.4	7.4	8.5	5.5	5.1	115	124	127	131	129
なし調製品		0.5	0.2	0.2	0.1	0.1	181	274	311	288	232
あんず		2.7	2.6	2.5	1.8	1.2	152	160	167	176	165
さくらんぼ		5.8	5.9	4.8	4.2	3.1	217	254	247	250	250
桃缶		56.9	53.1	51.3	44.8	40.1	111	118	124	122	120
桃調製品		6.7	7.1	6.8	6.4	6.2	61	84	78	80	83
ストロベリー		2.0	2.4	2.6	2.7	2.8	333	348	369	403	326
ミックスフルーツ		17.7	17.4	15.8	13.9	12.4	122	129	138	140	134
その他の果実調製品		138.4	125.9	126.1	108.6	86.8	142	170	188	184	183
対前年増減率 (%)											
ジャム・ゼリー		16.2	▲0.1	▲13.4	▲22.7	2.0	2.3	7.4	10.0	0.5	▲12.0
果実・ナットのピューレ・ペースト		4.7	55.4	70.1	7.5	▲49.4	▲18.1	▲26.0	▲16.6	▲4.6	1.6
ピーナツバター		▲9.9	15.4	▲5.3	8.8	▲21.6	▲0.6	10.9	8.7	25.7	▲18.5
落花生調製品		3.2	9.9	▲4.8	▲7.3	16.6	▲3.5	4.3	15.0	35.1	▲26.7
いった落花生		▲14.3	▲0.1	▲43.5	▲37.8	42.7	2.4	5.3	13.3	28.6	▲21.7
ナット調製品		16.9	8.7	▲11.1	▲18.7	15.4	▲0.7	3.0	3.2	▲3.0	▲5.5
パイナップル缶		▲1.3	▲12.2	▲6.7	▲8.7	▲11.9	2.2	4.6	10.9	7.5	▲9.3
パイナップル調製品		▲18.5	▲27.0	14.0	▲43.6	25.6	30.3	21.9	19.5	21.0	▲19.7
かんきつ類		2.4	▲5.3	▲4.5	▲15.3	▲7.9	12.1	13.1	1.3	▲7.6	▲5.7
なし缶		▲3.1	▲0.5	15.1	▲35.3	▲6.2	0.4	8.2	2.1	3.5	▲2.2
なし調製品		124.1	▲53.1	▲22.8	▲27.8	10.2	▲14.5	51.1	13.4	▲7.4	▲19.2
あんず		14.7	▲3.8	▲4.1	▲29.6	▲29.5	2.4	5.0	4.9	5.2	▲6.6
さくらんぼ		2.9	0.9	▲18.4	▲12.9	▲24.8	▲0.9	16.8	▲2.4	1.2	▲0.2
桃缶		2.8	▲6.8	▲3.3	▲12.7	▲10.5	1.5	6.1	5.7	▲1.7	▲1.8
桃調製品		38.5	6.4	▲4.0	▲6.8	▲2.6	▲12.1	37.6	▲6.4	2.2	4.1
ストロベリー		19.6	23.2	5.6	5.0	1.7	▲2.3	4.3	6.3	9.0	▲19.0
ミックスフルーツ		6.8	▲1.9	▲8.9	▲12.1	▲11.0	0.2	5.7	6.9	1.4	▲4.4
その他の果実調製品		12.7	▲9.0	0.2	▲13.9	▲20.0	4.2	19.4	10.7	▲2.6	▲0.2

資料：財務省「貿易月表」

4 製穀粉加工品

平成 21 年の製穀粉加工品の輸入数量指数（平成 17 年=100）は、81.7 で、対前年比 0.8% と前年並みであった。また、平成 21 年の製穀粉加工品の輸入額は、589 億円で、対前年比▲14.4% とかなり大きく減少した（図 3-17）。

品目別にみると、その他のパスタ、ピザが大幅に増加し、米粉調製品がかなりの程度増加し、ケーキミックス、その他のめん類、詰物パスタがやや増加し、小麦粉調製品、朝食用シリアル、食パン・乾パン類がわずかに増加した。一方、穀粉調製品、うどん・そうめん・そば、加熱調理した穀物調製品が大幅に減少し、もち・団子、パスタがかなりの程度減少し、ビーフンがやや減少し、他製穀粉調製品がわずかに減少した（表 3-10）。

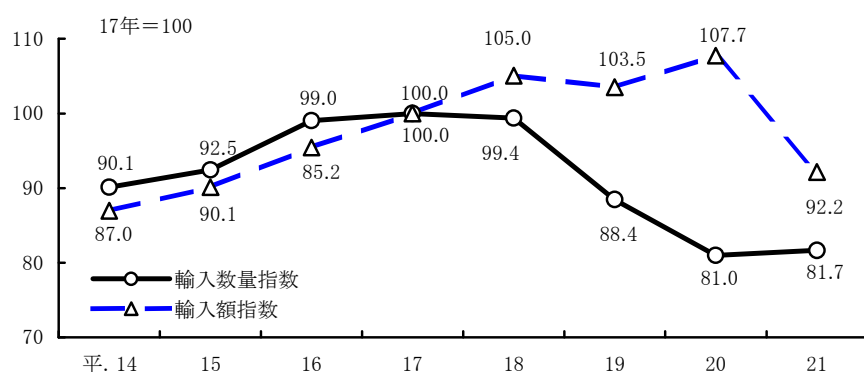
小麦粉調製品、米粉調製品は増加に転じる

平成 21 年の小麦粉調製品の輸入量は、対前年比 2.3% とわずかに増加した。また、米粉調製品の輸入量は、対前年比 8.3% とかなりの程度増加し、ケーキミックスの輸入量は、対前年比 3.3% とやや増加した。世界的な穀物需給の逼迫が一段落し、価格も低下したことから各粉調製品の輸入量は増加に転じた。

パスタは減少

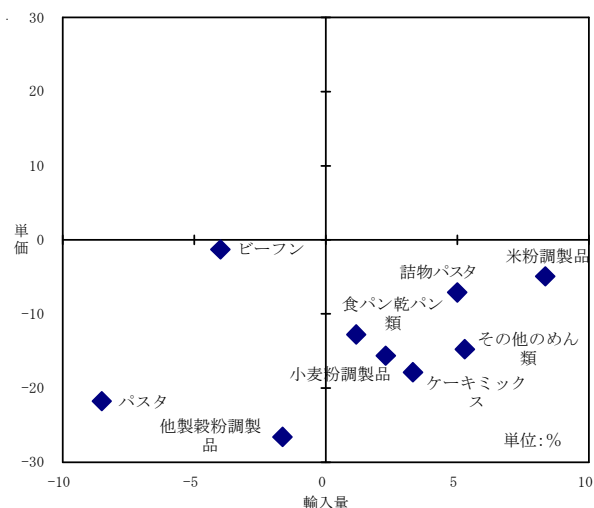
平成 21 年のパスタの輸入量は、対前年比▲8.5% とかなりの程度減少した。前年、大幅に増加した輸入量が一段落し、減少した。

図3-17 製穀粉加工品の輸入数量、輸入額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-18 製穀粉加工品の輸入量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-10 製穀粉加工品の輸入量の推移

品目	年次	輸入量 (千トン)					単価 (円/kg)				
		17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
穀粉調製品		0.3	0.3	0.4	0.4	0.3	231	306	306	371	381
米菓生地		0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
もち・団子		3.5	3.8	3.4	2.5	2.3	282	300	300	300	280
米粉調製品		120.6	107.8	90.2	85.9	93.1	77	87	97	101	96
小麦粉調製品		139.8	138.5	117.0	100.2	102.4	111	119	141	160	135
他製穀粉調製品		8.4	10.4	7.1	8.6	8.5	135	135	202	159	117
ケーキミックス		9.5	5.9	6.4	4.9	5.1	87	96	113	143	117
パスタ		109.6	109.8	104.4	127.3	116.4	115	119	133	176	137
ビーフン		7.5	7.2	5.6	6.5	6.2	206	217	232	243	240
うどん・そうめん・そば		1.8	1.7	1.8	0.9	0.7	240	258	240	319	226
その他のめん類		21.9	23.0	23.0	23.1	24.3	319	320	330	328	280
詰物パスタ		24.3	25.1	21.7	8.6	9.0	327	329	338	348	323
その他のパスタ		6.2	6.5	5.3	5.8	7.3	311	321	343	371	352
朝食用シリアル		3.2	3.1	3.3	3.1	3.1	275	281	312	273	245
食パン・乾パン類		9.5	10.1	8.1	5.6	5.6	269	304	338	357	311
ピザ		0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	649	540	541	503	501
加熱調理した穀物調製品		3.2	2.7	2.7	2.3	1.9	124	182	150	186	148
その他の穀物加工品		4.5	4.5	5.0	4.9	4.9	179	197	204	204	208
対前年増減率 (%)											
穀粉調製品		17.9	▲0.6	25.5	1.0	▲25.6	▲17.1	32.7	▲0.2	21.4	2.6
米菓生地		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
もち・団子		1.1	9.3	▲10.0	▲26.5	▲9.9	5.4	6.5	▲0.2	▲0.0	▲6.4
米粉調製品		▲1.5	▲10.6	▲16.3	▲4.8	8.3	5.2	12.2	11.5	4.4	▲4.9
小麦粉調製品		3.4	▲0.9	▲15.5	▲14.4	2.3	6.4	7.4	18.4	13.5	▲15.6
他製穀粉調製品		6.7	23.6	▲32.4	22.3	▲1.6	▲9.8	0.1	49.8	▲21.3	▲26.6
ケーキミックス		14.0	▲38.1	8.6	▲23.2	3.3	6.7	10.5	18.0	26.8	▲17.9
パスタ		▲1.7	0.2	▲4.9	21.9	▲8.5	0.9	4.1	11.9	31.6	▲21.8
ビーフン		20.3	▲3.8	▲22.4	15.1	▲4.0	16.3	5.3	7.2	4.6	▲1.3
うどん・そうめん・そば		19.9	▲7.8	5.6	▲50.3	▲22.0	▲7.3	7.5	▲7.1	33.1	▲29.2
その他のめん類		8.6	4.8	▲0.0	0.7	5.3	4.9	0.3	3.2	▲0.5	▲14.8
詰物パスタ		▲6.1	3.3	▲13.5	▲60.4	5.0	1.2	0.4	3.0	2.7	▲7.1
その他のパスタ		5.9	5.2	▲18.2	9.6	25.5	2.7	3.1	7.0	8.0	▲5.2
朝食用シリアル		▲9.4	▲3.5	6.9	▲7.5	2.3	2.2	2.2	11.0	▲12.7	▲10.1
食パン・乾パン類		5.0	6.1	▲19.8	▲31.0	1.2	2.5	12.8	11.2	5.5	▲12.8
ピザ		294.7	10.3	44.6	▲58.6	110.8	3.6	▲16.7	0.1	▲7.0	▲0.4
加熱調理した穀物調製品		▲5.5	▲15.1	▲1.1	▲14.9	▲16.8	7.3	46.4	▲17.3	24.0	▲20.8
その他の穀物加工品		▲24.2	▲1.5	11.4	▲1.4	0.7	11.9	10.4	3.2	0.3	1.6

資料：財務省「貿易月表」

5 糖類

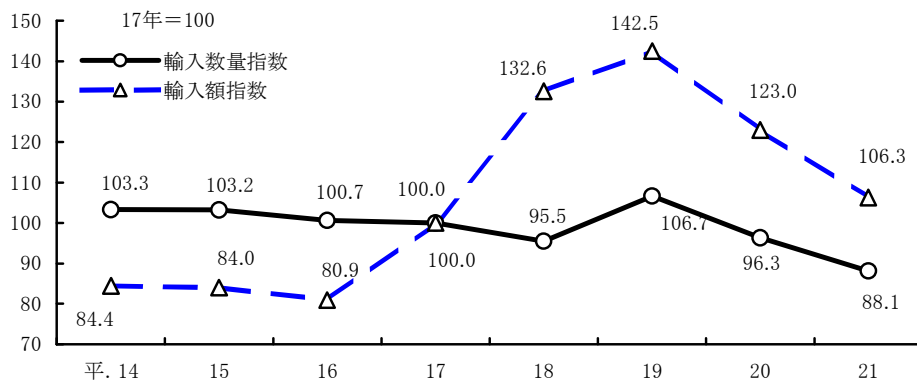
平成 21 年の糖類の輸入数量指数（平成 17 年=100）は、88.1 で、対前年比▲8.5%とかなりの程度低下した。また、平成 21 年の糖類の輸入額は、594 億円で、対前年比▲13.6%とかなり大きく減少した（図 3-19）。

品目別にみると、精製糖がかなり大きく増加した。一方、含みつ糖、メープルシロップ、カラメルが大幅に減少し、粗糖、その他の糖類がかなりの程度減少した（表 3-11）。

粗糖の輸入量はかなりの程度減少

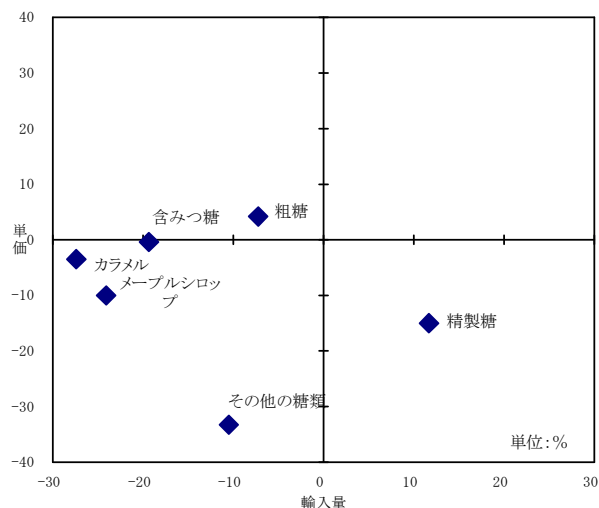
平成 21 年の粗糖の輸入量は、対前年比▲7.2%とかなりの程度減少した。ニューヨーク市場価格が引き続き上昇したことなどを要因として輸入量は減少した。

図3-19 糖類の輸入数量、輸入額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-20 糖類の輸入量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-11 糖類の輸入量の推移

品目	年次					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
含みつ糖	19.2	17.7	17.1	12.5	10.1	65	75	84	76	75
粗糖	1,329.0	1,292.1	1,506.3	1,383.7	1,283.6	29	43	33	34	36
精製糖	4.6	4.8	5.1	5.3	5.9	125	155	146	139	118
てん菜糖	-	0.0	0.0	0.0	-	-	604	-	-	-
メイプルシロップ	2.8	2.6	2.8	2.9	2.2	827	936	1,041	1,135	1,022
カラメル	1.3	1.2	1.0	0.8	0.6	110	118	129	128	123
その他の糖類	259.8	235.9	233.2	192.9	172.7	49	60	106	83	55
対前年増減率 (%)										
含みつ糖	22.2	▲ 7.8	▲ 3.8	▲ 26.8	▲ 19.4	▲ 1.7	15.2	11.9	▲ 10.1	▲ 0.4
粗糖	▲ 4.1	▲ 2.8	16.6	▲ 8.1	▲ 7.2	33.9	46.2	▲ 22.8	4.3	4.2
精製糖	5.0	3.7	7.3	3.5	11.7	15.7	24.0	▲ 6.1	▲ 4.5	▲ 15.0
てん菜糖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メイプルシロップ	34.5	▲ 7.3	5.7	3.1	▲ 24.1	8.8	13.2	11.2	9.1	▲ 10.0
カラメル	▲ 3.0	▲ 11.8	▲ 9.1	▲ 26.7	▲ 27.4	8.5	7.1	9.1	▲ 0.5	▲ 3.5
その他の糖類	3.4	▲ 9.2	▲ 1.1	▲ 17.3	▲ 10.5	5.0	22.8	76.7	▲ 21.6	▲ 33.3

資料：財務省「貿易月表」

6 菓子

平成 21 年の菓子の輸入数量指数（平成 17 年=100）は、100.6 で、対前年比▲2.7%とわずかに低下した。また、平成 21 年の菓子の輸入額は、854 億円で、対前年比▲16.2%と大幅に減少した(図 3-21)。

品目別にみると、チューインガム、キャンデー類、チョコレート菓子がやや増加し、チョコレート・ココア調製品がわずかに増加した。一方、ポテトチップスが大幅に減少し、その他の穀粉、菓子類がかなり大きく減少し、キャラメル、他の砂糖菓子、ビスケット・クラッカーがかなりの程度減少し、ココア粉がやや減少し、あられ・せんべいがわずかに減少した（表 3-12）。

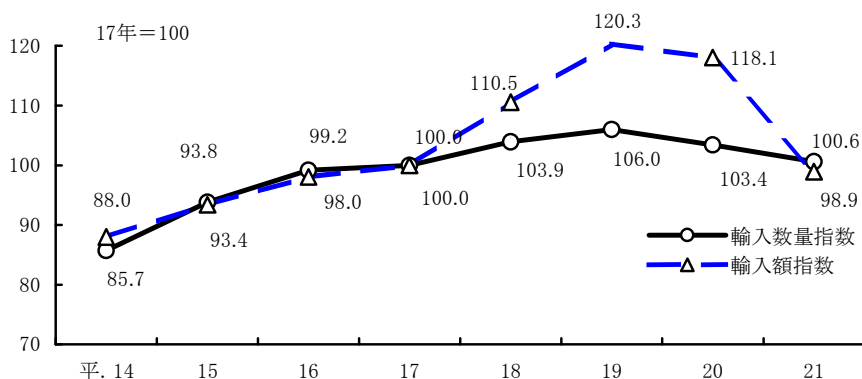
チョコレート・ココア調製品はわずかに増加、チョコレート菓子はやや増加

平成 21 年のチョコレート・ココア調製品の輸入量は、対前年比 1.0%とわずかに増加した。また、チョコレート菓子の輸入量は、対前年比 4.4%とやや増加した。一方、ココア粉の輸入量は、対前年比▲4.6%とやや減少した。いずれも、韓国からの輸入量が大きく増加している。

ポテトチップスは大幅減少

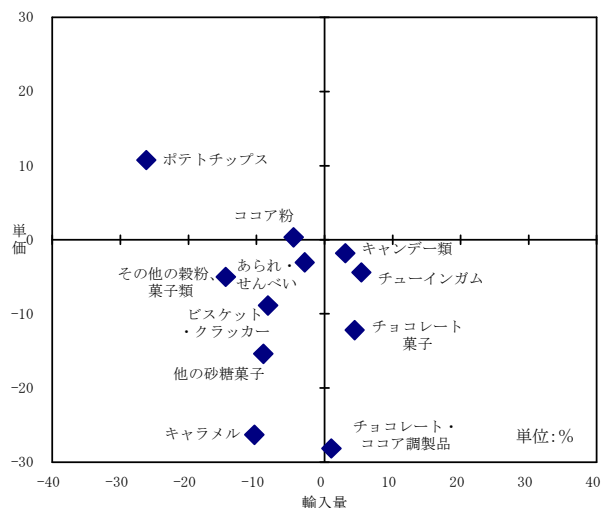
平成 21 年のビスケット・クラッカーの輸入量は、対前年比▲8.3%とかなりの程度減少し、あられ・せんべいの輸入量は、対前年比▲2.9%とわずかに減少した。また、ポテトチップスの輸入量は、対前年比▲26.2%と大幅に減少した。原料価格の高騰により、中国をはじめとするアジア諸国からの輸入が昨年に引き続き減少したことが要因とあげられる。

図3-21 菓子の輸入数量、輸入額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-22 菓子の輸入量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-12 菓子の輸入量の推移

品目	輸入量 (千トン)					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
チューインガム	1.3	1.4	1.7	4.3	4.5	2,069	2,171	1,326	1,179	1,127
キャンデー類	12.1	11.8	11.9	10.5	10.8	538	569	566	551	541
キャラメル	0.1	0.2	0.2	0.3	0.2	771	558	925	958	706
他の砂糖菓子	5.7	5.1	4.8	2.9	2.7	460	515	548	466	395
チョコレート菓子	19.9	20.3	18.9	18.6	19.4	871	929	998	953	837
ココア粉	34.2	37.7	38.9	39.7	37.9	152	161	165	169	169
チョコレート・ココア調製品	110.2	114.1	116.1	112.3	113.5	209	225	266	297	213
あられ・せんべい	9.5	10.8	11.6	11.0	10.7	342	337	324	314	304
ビスケット・クラッカー	23.9	24.5	23.1	18.0	16.5	334	345	391	446	406
ポテトチップス	9	8.6	9.8	7.6	5.6	456	512	559	542	600
その他の穀粉、菓子類	49.0	54.7	59.4	52.2	44.6	274	289	293	308	293
対前年増減率 (%)										
チューインガム	▲24.2	3.7	28.1	146.5	5.4	1.7	4.9	▲38.9	▲11.1	▲4.4
キャンデー類	▲8.3	▲2.1	0.6	▲12.3	3.0	▲2.8	5.7	▲0.5	▲2.7	▲1.8
キャラメル	▲5.5	204.4	22.0	25.6	▲10.3	34.2	▲27.7	65.9	3.5	▲26.3
他の砂糖菓子	20.1	▲11.9	▲4.5	▲39.1	▲9.0	▲9.3	11.9	6.4	▲14.9	▲15.4
チョコレート菓子	▲2.0	2.0	▲7.1	▲1.7	4.4	5.6	6.7	7.5	▲4.6	▲12.2
ココア粉	▲6.5	10.3	3.4	1.9	▲4.6	▲20.9	6.2	2.6	1.9	0.3
チョコレート・ココア調製品	0.3	3.6	1.8	▲3.3	1.0	7.0	7.8	18.0	11.6	▲28.2
あられ・せんべい	5.0	13.9	7.5	▲4.7	▲2.9	0.5	▲1.3	▲3.8	▲3.2	▲3.0
ビスケット・クラッカー	▲4.9	2.3	▲5.7	▲22.1	▲8.3	3.5	3.3	13.4	14.0	▲8.9
ポテトチップス	21.6	▲4.5	14.6	▲22.3	▲26.2	2.4	12.2	9.2	▲3.1	10.7
その他の穀粉、菓子類	40.8	11.6	8.5	▲12.1	▲14.5	▲17.8	5.6	1.5	5.1	▲5.0

資料：財務省「貿易月表」

7 飲料

平成 21 年の飲料の輸入数量指数（平成 17 年=100）は、89.2 で、対前年比▲13.0%とかなり大きく低下した。また、平成 21 年の飲料の輸入額は、1,135 億円で、対前年比▲25.3%と大幅に減少した(図 3-23)。

品目別にみると、インスタントティがかなり大きく増加した。一方、りんご果汁、その他の果汁、野菜ジュースが大幅に減少し、他のかんきつ果汁、パイナップル果汁、トマトジュース、混合ジュース、清涼飲料がかなり大きく減少し、グレープフルーツ果汁がかなりの程度減少し、インスタントコーヒーがやや減少し、ぶどう果汁がわずかに減少した（表 3-13）。

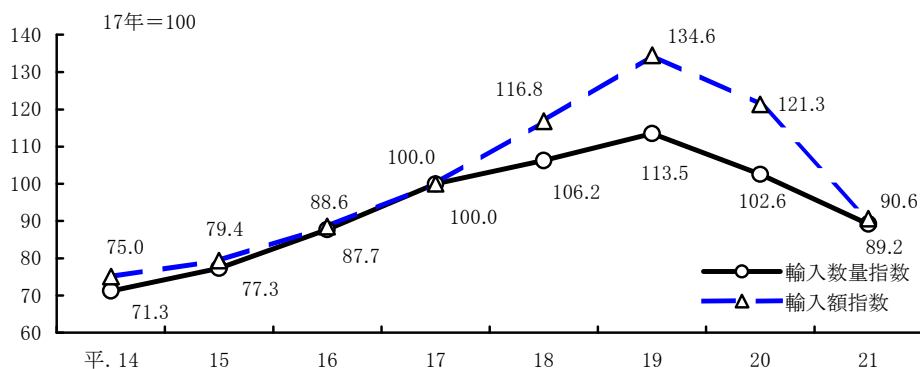
清涼飲料は昨年に引き続き減少

平成 21 年の清涼飲料の輸入量は、対前年比▲13.4%とかなり大きく減少した。一昨年までは大幅な輸入増を続けてきたが、20 年に需要減退やここ数年の伸びの反動などにより減少に転じたが、今年も引き続き減少した。

果汁系飲料、野菜ジュースは引き続き大きく減少

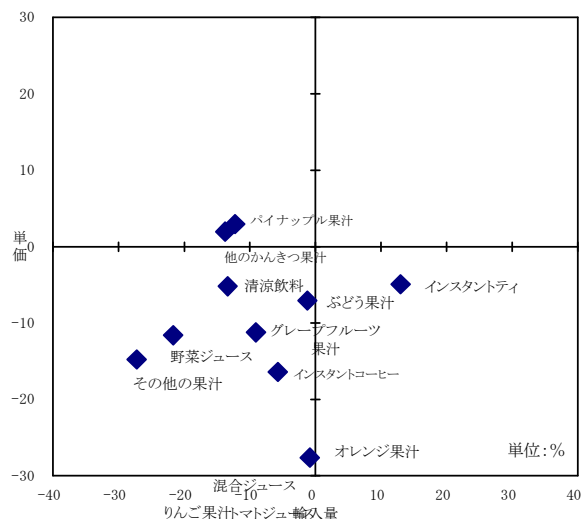
平成 21 年のりんご果汁の輸入量は、対前年比▲24.2%と大幅に減少し、他のかんきつ果汁の輸入量は対前年比▲13.7%、パイナップル果汁の輸入量は対前年比▲12.3%とかなり大きく減少した。また、野菜ジュースの輸入量は、対前年比▲21.7%と大幅に減少した。りんご果汁では輸入シェア約 7 割の中国からの輸入が昨年に引き続き大きく減少している。また、野菜ジュースでは、輸入主要国であるアメリカやオーストラリアからの輸入量が大幅に減少した。

図3-23 飲料の輸入数量、輸入額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-24 飲料の輸入量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-13 飲料の輸入量の推移

品目	年次					年次				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
オレンジ果汁	88.6	80.1	73.8	62.5	61.9	157	231	339	267	193
グレープフルーツ果汁	31.9	23.4	23.5	23.1	21.0	257	295	270	199	177
他のかんきつ果汁	17.5	19.5	20.3	18.0	15.5	221	235	284	305	311
パイナップル果汁	10.9	10.1	9.6	10.1	8.9	184	188	188	189	195
ぶどう果汁	29.3	31.0	34.0	36.3	35.8	229	241	259	266	247
りんご果汁	84.5	81.0	93.5	81.0	61.4	150	169	198	273	177
その他の果汁	12.0	9.8	9.5	8.6	6.3	570	605	678	623	531
トマトジュース	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5	127	165	173	168	108
野菜ジュース	33.7	40.8	49.4	45.8	35.8	296	310	339	325	287
混合ジュース	7.1	6.7	8.0	7.6	6.4	179	245	348	353	233
清涼飲料	617.5	755.3	814.9	701.3	607.4	82	84	81	83	78
インスタントコーヒー	7.8	7.4	7.1	7.9	7.4	929	1052	1161	1129	943
インスタントティ	1.4	1.0	1.2	1.4	1.6	1,425	1,215	1,429	1,241	1,180
対前年増減率 (%)										
オレンジ果汁	1.1	▲ 9.6	▲ 7.9	▲ 15.4	▲ 0.9	▲ 2.9	47.3	46.7	▲ 21.1	▲ 27.6
グレープフルーツ果汁	▲ 2.3	▲ 26.7	0.6	▲ 1.9	▲ 9.1	43.1	14.7	▲ 8.4	▲ 26.4	▲ 11.2
他のかんきつ果汁	5.0	11.5	4.2	▲ 11.5	▲ 13.7	5.6	6.3	20.8	7.7	2.0
パイナップル果汁	34.5	▲ 7.8	▲ 4.6	5.8	▲ 12.3	3.2	2.3	▲ 0.1	0.6	2.9
ぶどう果汁	9.9	5.8	9.6	6.7	▲ 1.2	8.2	5.1	7.2	2.9	▲ 7.1
りんご果汁	11.6	▲ 4.2	15.5	▲ 13.4	▲ 24.2	2.3	12.0	17.5	37.8	▲ 35.3
その他の果汁	24.3	▲ 18.3	▲ 3.0	▲ 9.1	▲ 27.2	25.4	6.2	12.0	▲ 8.1	▲ 14.8
トマトジュース	▲ 65.9	3.9	▲ 15.9	▲ 5.1	▲ 15.4	50.2	29.9	4.9	▲ 2.6	▲ 35.9
野菜ジュース	64.8	21.1	21.0	▲ 7.4	▲ 21.7	▲ 3.1	5.0	9.4	▲ 4.3	▲ 11.6
混合ジュース	▲ 2.0	▲ 5.4	19.3	▲ 5.4	▲ 15.0	16.9	36.6	42.4	1.4	▲ 34.1
清涼飲料	19.5	22.3	7.9	▲ 13.9	▲ 13.4	▲ 12.6	3.4	▲ 3.8	1.7	▲ 5.2
インスタントコーヒー	1.9	▲ 4.3	▲ 4.8	10.7	▲ 5.7	18.9	13.2	10.4	▲ 2.8	▲ 16.4
インスタントティ	▲ 21.6	▲ 27.5	19.2	12.3	13.0	▲ 13.6	▲ 14.7	17.6	▲ 13.1	▲ 4.9

資料：財務省「貿易月表」

8 調味料

平成 21 年の調味料の輸入数量指数（平成 17 年=100）は、94.7 で、対前年比▲3.0%とわずかに低下した。また、平成 21 年の調味料の輸入額は、366 億円で、対前年比▲2.4%とわずかに減少した（図 3-25）。

品目別にみると、マヨネーズが大幅に増加し、その他のソース、その他の混合調味料がやや増加し、ドレッシングがわずかに増加した。一方、インスタントカレーが大幅に減少し、マスタード、うま味調味料がかなり大きく減少し、食酢類がかなりの程度減少し、醤油、トマトケチャップがやや減少した（表 3-14）。

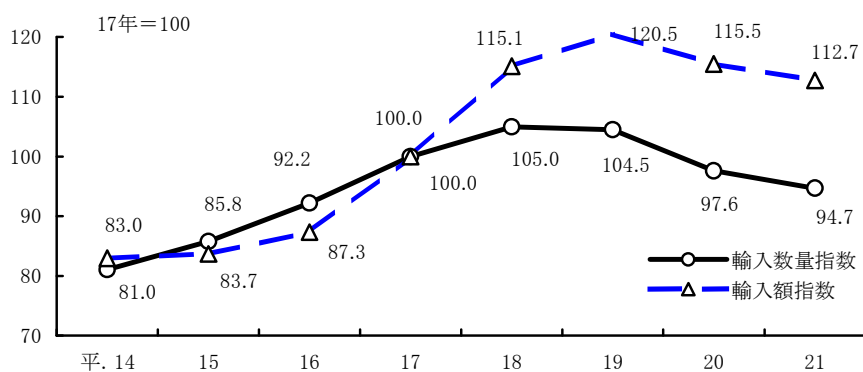
うま味調味料はかなり大きく減少

平成 21 年のうま味調味料の輸入量は、対前年比▲12.3%とかなり大きく減少した。昨年輸入が大幅に増えたベトナムは今年一転して、大幅減となり、一昨年のレベルに戻った。

トマト関連製品も減少

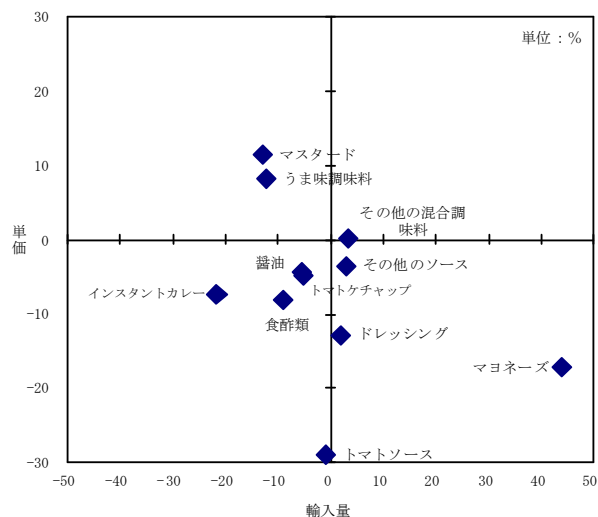
平成 21 年のトマトケチャップの輸入量は、対前年比▲5.1%とやや減少した。輸入シェア約 6 割のアメリカからの輸入がかなり大きく減少したことが要因としてあげられる。

図3-25 調味料の輸入数量、輸入額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-26 調味料の輸入量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-14 調味料の輸入量の推移

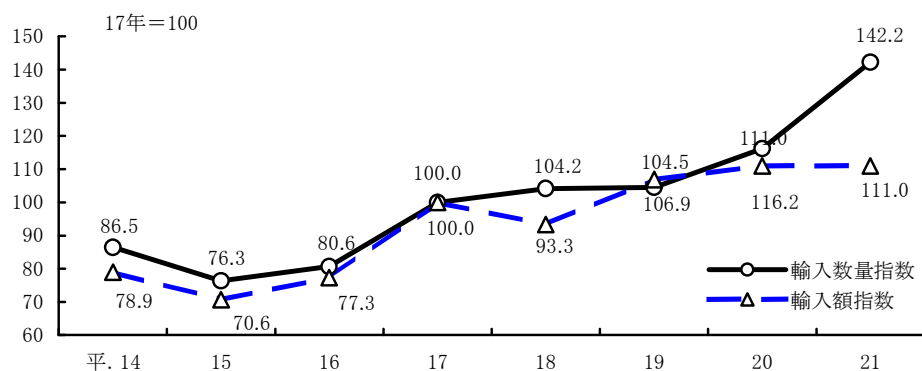
品目	年次					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
醤油	1.1	1.1	1.1	0.7	0.7	80	90	92	117	112
トマトケチャップ	7.7	7.0	6.9	6.5	6.2	95	105	113	110	105
トマトソース	0.5	0.6	0.5	0.6	0.6	205	199	245	183	130
マスタード	3.9	3.3	3.8	3.9	3.4	253	297	290	300	334
マヨネーズ	0.5	0.5	0.5	0.5	0.7	302	349	375	411	341
ドレッシング	0.8	0.7	0.7	0.5	0.5	362	336	342	344	300
その他のソース	59.7	62.9	61.3	53.1	54.8	240	253	271	270	261
インスタントカレー	1.7	1.7	1.4	1.4	1.1	342	340	369	380	352
うま味調味料	77.1	86.6	88.8	94.3	82.7	107	126	127	131	142
食酢類	4.8	4.3	3.7	2.9	2.6	263	273	317	332	306
その他の混合調味料	36.8	38.1	39.2	35.3	36.4	155	171	179	194	194
対前年増減率 (%)										
醤油	▲ 11.9	▲ 2.4	2.8	▲ 36.4	▲ 5.5	3.7	12.6	2.7	26.6	▲ 4.3
トマトケチャップ	15.4	▲ 8.9	▲ 0.8	▲ 6.0	▲ 5.1	8.0	10.3	7.1	▲ 2.2	▲ 4.9
トマトソース	5.5	12.3	▲ 15.9	33.0	▲ 0.8	7.7	▲ 2.8	23.4	▲ 25.5	▲ 28.9
マスタード	11.9	▲ 15.1	12.8	4.4	▲ 12.8	▲ 0.7	17.4	▲ 2.2	3.4	11.5
マヨネーズ	▲ 20.0	▲ 3.8	5.2	▲ 5.7	43.9	8.2	15.6	7.5	9.6	▲ 17.0
ドレッシング	▲ 17.8	▲ 9.3	▲ 1.3	▲ 22.8	1.9	10.1	▲ 7.2	1.8	0.4	▲ 12.8
その他のソース	10.4	5.4	▲ 2.5	▲ 13.4	3.1	3.0	5.2	7.4	▲ 0.3	▲ 3.4
インスタントカレー	7.8	▲ 2.0	▲ 20.1	2.4	▲ 21.6	13.7	▲ 0.7	8.6	2.9	▲ 7.4
うま味調味料	10.6	12.3	2.6	6.1	▲ 12.3	6.3	17.5	0.8	3.0	8.3
食酢類	▲ 19.4	▲ 10.4	▲ 13.7	▲ 21.2	▲ 9.2	15.5	3.5	16.5	4.7	▲ 8.1
その他の混合調味料	10.8	3.6	2.9	▲ 9.9	3.1	8.2	10.6	4.9	8.1	0.2

資料：財務省「貿易月表」

9 加工油脂

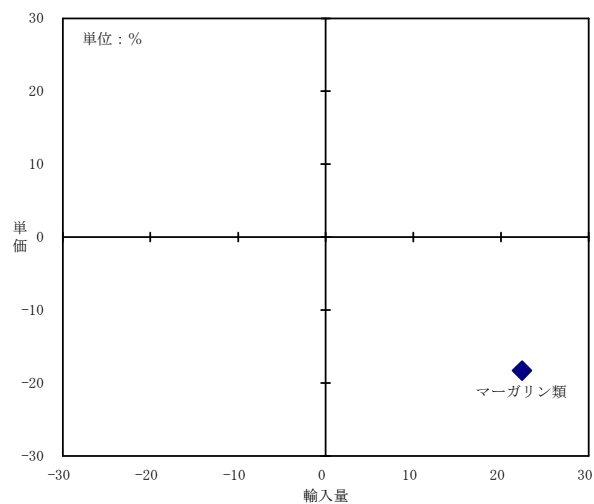
平成 21 年の加工油脂の輸入数量指数（平成 17 年=100）は、142.2 で、対前年比 22.4%と大幅に上昇した。また、平成 21 年の加工油脂の輸入額は、27 億円で、対前年比▲0.0%と前年並みであった(図 3-27)。これは、一時不足したバター代替需要としてマーガリンの輸入が昨年に引き続き増加したためと思われる。

図3-27 加工油脂の輸入数量、輸入額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-28 加工油脂の輸入量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-15 加工油脂の輸入量の推移

品目	年次	輸入量 (千トン)					単価 (円/kg)				
		17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
マーガリン類		6.5	6.8	6.8	7.6	9.2	296	338	385	360	294
対前年増減率 (%)											
マーガリン類		24.0	4.2	0.3	11.2	22.4	▲ 3.1	14.2	14.1	▲ 6.6	▲ 18.3

資料：財務省「貿易月表」

10 その他調整食料品

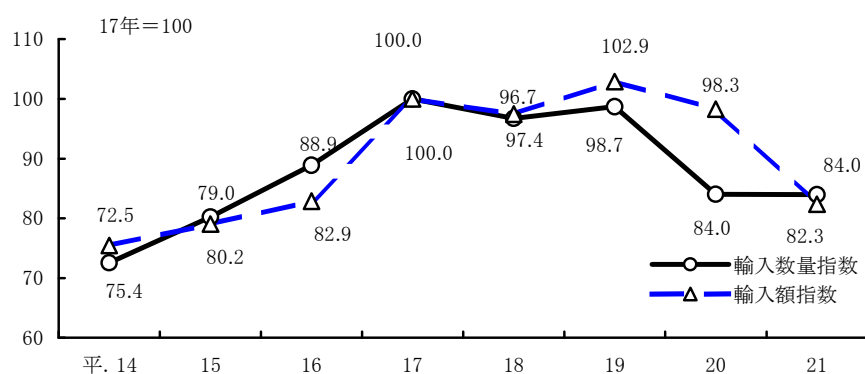
平成21年のその他の調製食料品の輸入数量指数（平成17年=100）は、84.0で、対前年比▲0.0%と前年並みであった。また、平成21年のその他の調製食料品の輸入額は、1,257億円で、対前年比▲16.2%と大幅に減少した（図3-29）。

品目別にみると、栄養補助食品、ミルク調製品がかなりの程度増加し、コーヒーをもととした調製品、その他加糖調整品がやや増加した。一方、育児用調製品が大幅に減少し、酵母・イーストがかなりの程度減少し、茶をもととした調製品、その他調製品がやや減少し、たんぱく質調製品がわずかに減少した（表3-16）。

ミルク調製品はかなりの程度増加

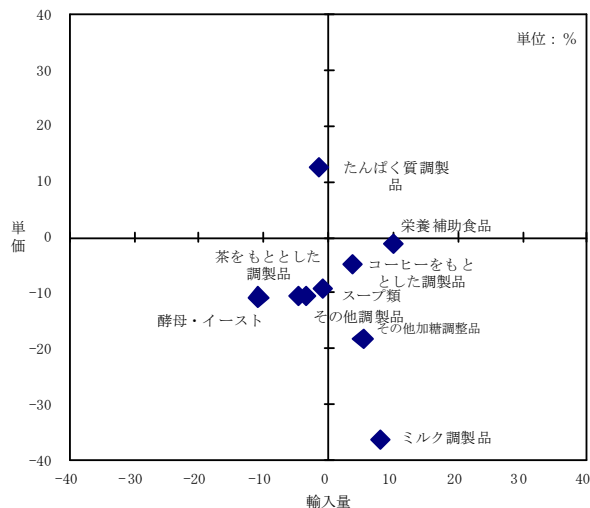
平成21年のミルク調製品の輸入量は、対前年比8.0%とかなりの程度増加した。輸入乳製品価格の安定化により、ミルク調製品の輸入価格も3割以上の大幅な低下となり、輸入量は一昨年並みに回復した。

図3-29 その他の調製食料品の輸入数量、輸入額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-30 その他の調製食料品の輸入量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-16 その他の調製食料品の輸入量の推移

品目	年次	輸入量 (千トン)					単価 (円/kg)				
		17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
育児用調製品		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	277	285	337	374	374
酵母・イースト		10.3	11.4	10.7	15.8	14.1	574	521	514	349	311
スープ類		16.1	18.7	18.6	17.4	17.2	329	328	349	335	304
たんぱく質調製品		6.4	6.9	21.2	5.6	5.6	325	345	108	418	471
栄養補助食品		1.1	0.9	1.0	0.9	1.0	7,434	7,555	8,306	7,653	7,560
ミルク調製品		147.6	143.7	134.4	123.2	133.1	176	194	236	291	186
コーヒーをもととした調製品		13.4	11.3	12.1	8.6	8.9	389	474	544	573	546
茶をもととした調製品		1.2	1.4	1.2	1.1	1.0	946	937	1,047	1,219	1,091
その他調製品		200.0	190.1	189.3	151.6	146.3	423	395	406	449	402
その他加糖調整品		189.7	198.1	197.0	200.5	211.1	74	91	93	97	79
対前年増減率 (%)											
育児用調製品		45.9	78.9	▲ 50.7	121.2	▲ 57.7	80.7	3.0	18.0	11.0	▲ 0.1
酵母・イースト		13.9	9.9	▲ 5.9	47.4	▲ 10.8	▲ 14.2	▲ 9.3	▲ 1.2	▲ 32.2	▲ 10.7
スープ類		5.7	16.4	▲ 0.9	▲ 6.4	▲ 1.0	7.2	▲ 0.3	6.4	▲ 4.1	▲ 9.3
たんぱく質調製品		7.6	7.7	207.3	▲ 73.4	▲ 1.5	5.0	6.0	▲ 68.5	285.0	12.7
栄養補助食品		12.0	▲ 20.2	9.4	▲ 9.0	10.0	▲ 2.5	1.6	10.0	▲ 7.9	▲ 1.2
ミルク調製品		▲ 2.6	▲ 2.6	▲ 6.4	▲ 8.4	8.0	8.4	10.0	21.7	23.3	▲ 36.3
コーヒーをもととした調製品		10.4	▲ 15.9	7.7	▲ 29.1	3.8	10.0	21.8	14.6	5.3	▲ 4.7
茶をもととした調製品		▲ 16.9	8.9	▲ 9.6	▲ 12.8	▲ 4.5	▲ 5.8	▲ 1.0	11.8	16.4	▲ 10.5
その他調製品		21.1	▲ 4.9	▲ 0.4	▲ 19.9	▲ 3.5	10.9	▲ 6.7	2.8	10.7	▲ 10.6
その他加糖調整品		4.9	4.4	▲ 0.5	1.8	5.3	3.5	23.1	2.2	4.4	▲ 18.3

資料：財務省「貿易月表」

11 酒類

平成 21 年の酒類の輸入数量指数（平成 17 年=100）は、107.0 で、対前年比 4.2%とやや上昇した。また、平成 21 年の酒類の輸入額は、1,738 億円で、対前年比▲21.4%と大幅に減少した(図 3-31)。

品目別にみると、その他の酒類が大幅に増加し、ワイン、合成清酒がやや増加した。一方、ブランデー、清酒が大幅に減少し、ビールがかなりの程度減少した（表 3-17）。

ワインの輸入量はやや増加

平成 21 年のワインの輸入量は、対前年比 4.4%とやや増加した。輸入シェアトップのフランスからの輸入量は減少したものの、チリ、スペインからの輸入が大幅に増加している。

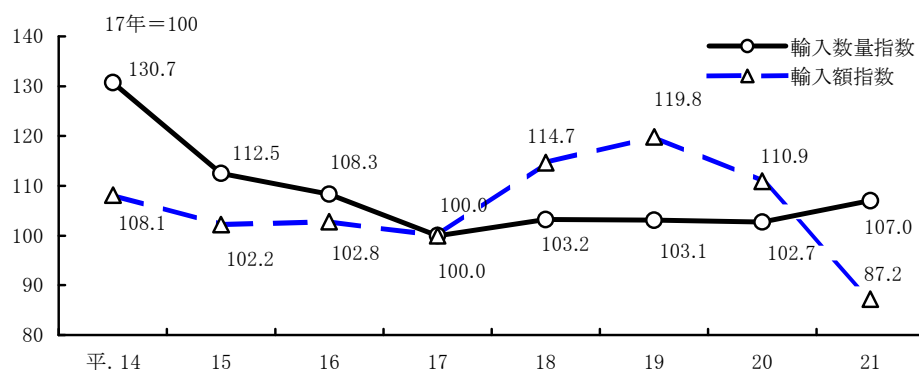
ブランデーは大幅減もウイスキーは前年並み

平成 21 年のブランデーの輸入量は、対前年比▲20.2%と大幅に減少した。近年続く高アルコール飲料の需要低下により減少傾向が続いていると思われるが、ウイスキーに関しては、対前年比 0.2%と前年並みとなった。

輸入ビールは増加、リキュール類は減少へ

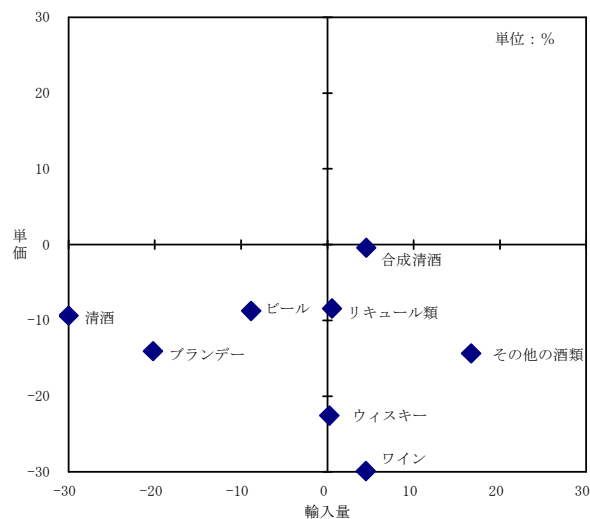
平成 21 年のビールの輸入量は、対前年比▲8.8%とかなりの程度減少した。一昨年、大きく減少させたビールの輸入量が昨年は一時的に回復したが、今年はまた、減少に転じている。

図3-31 酒類の輸入数量、輸入額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-32 酒類の調製食料品の輸入量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-17 酒類の輸入量の推移

品目	年次					年次				
	輸入量 (千トン)					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
ビール	37.9	37.7	31.8	33.7	30.7	143	163	184	177	162
ワイン	166.1	175.3	176.6	182.1	190.2	691	782	837	761	534
ブランデー	5.3	4.8	4.7	3.7	3.0	2,504	2,609	2,628	2,592	2,228
ウイスキー	17.9	18.0	16.9	15.9	15.9	1,307	1,432	1,498	1,460	1,130
清酒	3.0	3.5	3.1	0.6	0.3	102	102	106	141	128
合成清酒	17.4	17.4	17.7	15.6	16.3	83	87	94	91	90
リキュール類	18.7	18.8	21.0	18.6	18.7	648	644	580	577	528
その他の酒類	233.2	242.3	242.8	250.1	291.8	123	137	137	126	108
対前年増減率 (%)										
ビール	15.2	▲0.6	▲15.6	5.9	▲8.8	2.1	13.8	13.2	▲3.9	▲8.8
ワイン	▲5.3	5.5	0.7	3.1	4.4	5.4	13.2	7.0	▲9.0	▲29.9
ブランデー	▲13.8	▲8.8	▲3.2	▲20.4	▲20.2	▲1.1	4.2	0.7	▲1.4	▲14.1
ウイスキー	▲9.1	0.4	▲5.9	▲6.1	0.2	5.4	9.5	4.6	▲2.5	▲22.6
清酒	15.6	17.2	▲11.5	▲80.4	▲47.1	▲4.1	▲0.2	4.6	32.6	▲9.4
合成清酒	▲3.7	▲0.5	1.9	▲11.8	4.5	0.4	5.3	8.1	▲3.8	▲0.4
リキュール類	▲1.4	0.2	12.1	▲11.4	0.5	0.3	▲0.6	▲9.9	▲0.6	▲8.4
その他の酒類	▲18.1	3.9	0.2	3.0	16.6	11.6	11.1	0.5	▲8.6	▲14.4

資料：財務省「貿易月表」

輸出の部

1 畜産加工品

平成 21 年の畜産加工品の輸出数量指数（平成 17 年=100）は、249.3 で、対前年比 24.3%と大幅に上昇した。また、平成 21 年の畜産加工品の輸出額は、45 億円で、対前年比 32.7%と大幅に増加した(図 3-33)。

品目別にみると、ソーセージ、粉乳が大幅に増加し、れん乳がかなりの程度増加した。一方、鶏肉調製品、牛肉調製品、その他畜産調製品、アイスクリーム類が大幅に減少した（表 3-18）。

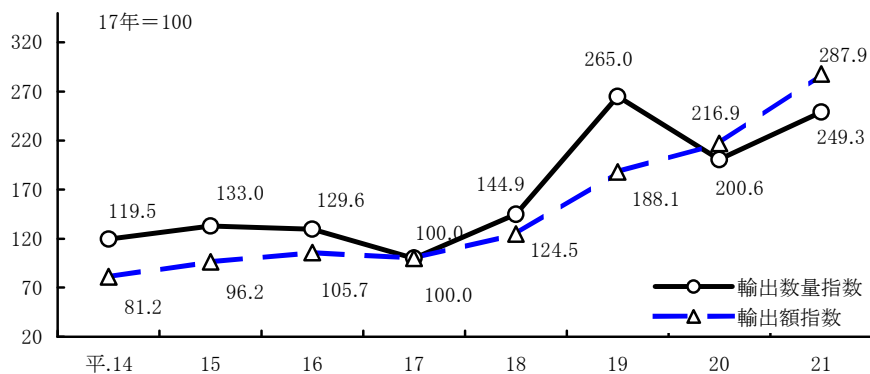
食肉加工品は前年の反動で減少

平成 21 年の豚肉調製品の輸出量は、対前年比 0.7%と前年並みであったが、鶏肉調製品は対前年比▲17.5%、牛肉調製品も対前年比▲27.6%、その他畜産調製品も対前年比▲29.9%と大幅に減少した。前年に全ての食肉加工品の輸出が大きく増加したことの反動として減少した。

アイスクリーム類は大幅減、粉乳は大幅増

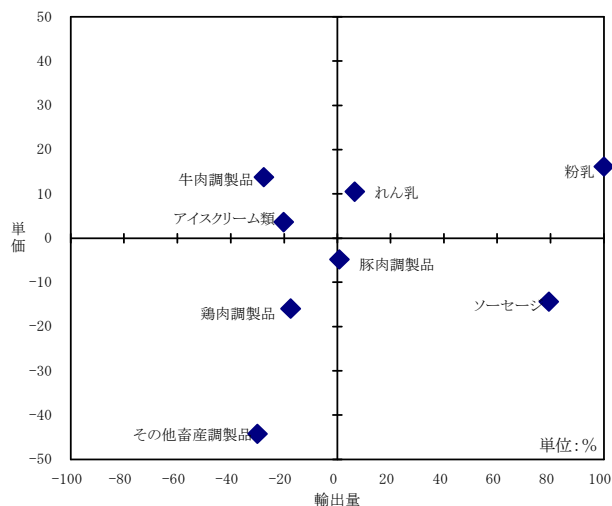
平成 21 年のアイスクリーム類の輸出量は、対前年比▲20.1%と大幅に減少した。アイスクリームはここ数年、増加傾向にあったものが、一段落した。一方、粉乳の輸出量は、対前年比 107.2%と大幅に増加した。前年に国内の需給逼迫により大幅に減少したが、今年はまた増加に転じている。

図3-33 畜産加工品の輸出数量、輸出額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-34 畜産加工品の輸出货量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-18 畜産加工品の輸出货量の推移

品目	年次					輸出量 (トン)					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
ソーセージ	6.0	15.7	12.5	14.1	25.3	1,024	827	1,513	1,552	1,329	▲ 5.4	▲ 19.3	83.1	2.6	▲ 14.4
鶏肉調製品	122.9	62.4	247.4	284.9	235.0	746	673	268	333	280	▲ 75.3	▲ 49.3	296.5	15.2	▲ 17.5
牛肉調製品	13.7	2.4	2.5	16.9	12.2	1,051	1,362	1,218	762	866	▲ 6.4	▲ 82.8	7.6	566.0	▲ 27.6
豚肉調製品	319.4	338.2	269.2	303.3	305.5	242	240	268	380	362	▲ 13.7	5.9	▲ 20.4	12.7	0.7
その他畜産調製品	366.8	321.2	335.3	587.1	411.3	1,003	983	996	1,195	667	▲ 11.8	▲ 12.4	4.4	75.1	▲ 29.9
アイスクリーム類	1,120.5	1,390.1	1,513.1	1,544.8	1,234.1	463	495	507	515	534	4.5	24.1	8.8	2.1	▲ 20.1
れん乳	147.4	130.4	136.9	154.8	164.9	515	501	516	505	558	57.3	▲ 11.5	5.0	13.1	6.5
粉乳	98.9	617.2	1,924.2	874.3	1,811.8	1,194	637	616	1,376	1,599	▲ 22.4	524.2	211.8	▲ 54.6	107.2
バター	3.7	4.0	45.3	70.7	97.2	1,351	1,311	495	405	407	▲ 97.1	6.8	1047.0	55.9	37.5
プロセスチーズ	293.3	375.7	445.3	287.5	294.6	910	903	891	1,184	1,161	21.8	28.1	18.5	▲ 35.4	2.5
ナチュラルチーズ	26.1	19.0	0.2	1.8	4.2	700	492	1,192	1,284	1,106	▲ 62.1	▲ 27.1	▲ 98.7	631.3	142.1
ヨーグルト	24.3	9.7	63.2	88.8	9.8	641	799	438	280	1,109	143.0	▲ 60.2	552.1	40.5	▲ 88.9
対前年増減率 (%)															

資料：財務省「貿易月表」

2 水産加工品

平成 21 年の水産加工品の輸出数量指数（平成 17 年=100）は、103.5 で、対前年比▲3.9%とやや低下した。また、平成 21 年の水産加工品の輸出額は、463 億円で、対前年比▲6.5%とかなりの程度減少した(図 3-35)。

品目別にみると、さばが大幅に増加し、かつお・まぐろ類調製品、かに調製品がかなり大きく増加し、その他の魚調製品がかなりの程度増加し、その他水産調製品がやや増加した。一方、いわし調製品、かたくちいわし、かまぼこ類、あわび調製品が大幅に減少し、にしん、魚卵調製品がかなり大きく減少し、さけ調製品がかなりの程度減少し、まぐろ缶、魚肉ソーセージ、えび調製品がやや減少した。(表 3-19)。

さばは大幅増加、まぐろ缶はやや減少

平成 21 年のさばの輸出量は、対前年比 127.1%と大幅に増加した。一方、まぐろ缶の輸出量は、対前年比▲5.7%とやや減少した。

かまぼこ類は大幅減少、魚肉ソーセージはやや減少

平成 21 年のかまぼこ類の輸出量は、対前年比▲30.4%と大幅に減少した。また、魚肉ソーセージの輸出量は、対前年比▲5.9%とやや減少した。

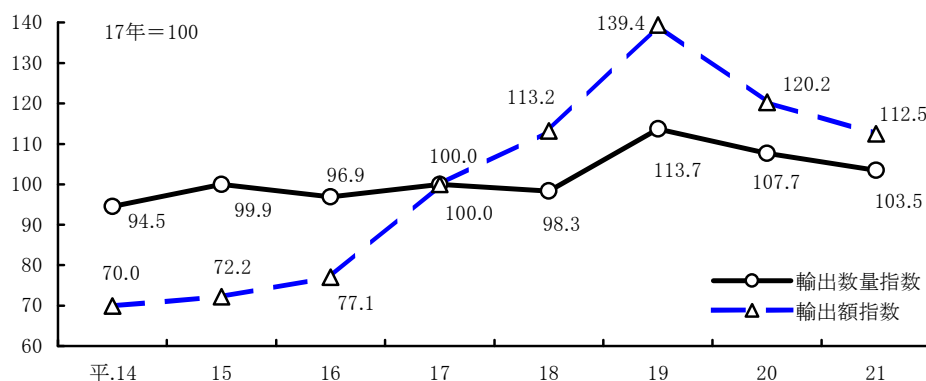
かに調製品はかなり大きく増加、えび調製品はやや減

平成 21 年のかに調製品の輸出量は、対前年比 11.3%とかなり大きく増加した。一方、えび調製品の輸出量は、対前年比▲4.3%とやや減少した。

魚卵調製品もかなり大きく減少

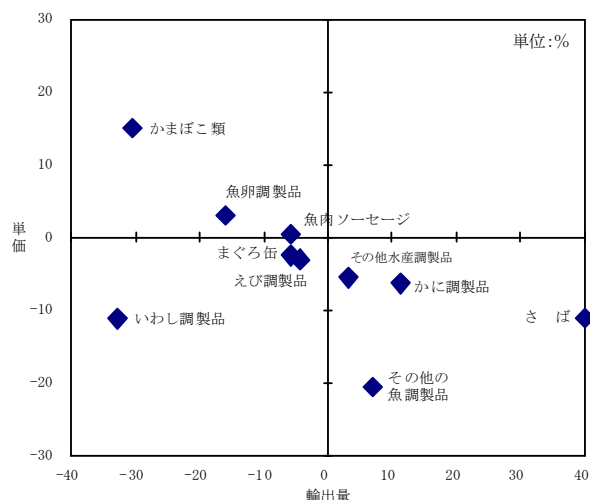
平成 21 年の魚卵調製品の輸出量は、対前年比▲15.9%とかなり大きく減少した。

図3-35 水産加工品の輸出数量、輸出額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-36 水産加工品の輸出量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-19 水産加工の輸出量の推移

品目	輸出量 (トン)					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
さけ調製品	26.4	58.1	62.0	52.2	46.6	1,644	1,220	1,692	1,528	1,253
にしん	191.1	226.2	221.2	201.7	179.5	1,422	1,361	1,334	1,499	1,535
いわし調製品	133.8	190.2	155.6	232.4	156.3	697	672	870	721	640
まぐろ缶	541.1	528.5	666.7	700.2	660.0	781	826	827	815	795
かつお・まぐろ類調製品	257.9	234.7	290.2	243.6	281.7	953	1,026	1,126	1,237	1,182
さば	2,388.4	1,304.5	2,686.3	1,566.3	3,557.8	330	395	356	466	414
かたくちいわし	566.4	331.2	327.4	144.6	108.7	774	1,161	999	1,222	630
その他の魚調製品	444.3	593.4	596.4	492.8	526.6	1,268	1,332	1,239	1,304	1,035
魚肉ソーセージ	773.1	778.7	807.7	1,026.2	966.0	505	532	549	548	551
かまぼこ類	9,199.1	9,334.0	10,631.8	9,880.7	6,877.1	728	753	756	821	944
魚卵調製品	604.9	684.4	868.4	751.2	631.6	1,783	1,709	2,020	2,071	2,135
かに調製品	1,431.5	1,167.2	1,165.1	780.1	868.4	629	669	738	764	715
えび調製品	237.8	278.6	371.8	272.9	261.1	1,433	1,383	1,372	1,504	1,458
あわび調製品	50.2	41.6	68.5	46.8	32.0	58,334	70,167	80,217	58,479	56,292
その他水産調製品	6,181.2	6,163.7	6,813.8	6,928.1	7,153.7	4,202	5,035	5,410	4,701	4,439
対前年増減率 (%)										
さけ調製品	▲ 25.3	120.2	6.7	▲ 15.8	▲ 10.8	17.1	▲ 25.8	38.7	▲ 9.7	▲ 18.0
にしん	▲ 12.0	18.4	▲ 2.2	▲ 8.8	▲ 11.0	1.9	▲ 4.3	▲ 2.0	12.3	2.5
いわし調製品	▲ 7.0	42.1	▲ 18.2	49.4	▲ 32.7	22.0	▲ 3.6	29.4	▲ 17.1	▲ 11.2
まぐろ缶	▲ 18.0	▲ 2.3	26.1	5.0	▲ 5.7	8.1	5.8	0.2	▲ 1.5	▲ 2.5
かつお・まぐろ類調製品	▲ 15.5	▲ 9.0	23.7	▲ 16.1	15.7	1.7	7.6	9.8	9.8	▲ 4.4
さば	6.7	▲ 45.4	105.9	▲ 41.7	127.1	2.2	19.7	▲ 9.9	30.9	▲ 11.2
かたくちいわし	38.9	▲ 41.5	▲ 1.1	▲ 55.8	▲ 24.8	38.9	50.0	▲ 14.0	22.3	▲ 48.4
その他の魚調製品	▲ 14.5	33.6	0.5	▲ 17.4	6.9	9.6	5.1	▲ 7.0	5.2	▲ 20.6
魚肉ソーセージ	17.8	0.7	3.7	27.0	▲ 5.9	3.4	5.3	3.2	▲ 0.3	0.6
かまぼこ類	19.9	1.5	13.9	▲ 7.1	▲ 30.4	4.5	3.5	0.4	8.6	15.0
魚卵調製品	▲ 1.3	13.1	26.9	▲ 13.5	▲ 15.9	5.0	▲ 4.1	18.2	2.5	3.1
かに調製品	15.2	▲ 18.5	▲ 0.2	▲ 33.0	11.3	1.0	6.4	10.3	3.4	▲ 6.4
えび調製品	16.5	17.1	33.5	▲ 26.6	▲ 4.3	4.2	▲ 3.5	▲ 0.8	9.6	▲ 3.0
あわび調製品	▲ 22.4	▲ 17.2	64.8	▲ 31.8	▲ 31.5	50.6	20.3	14.3	▲ 27.1	▲ 3.7
その他水産調製品	3.6	▲ 0.3	10.5	1.7	3.3	34.0	19.8	7.4	▲ 13.1	▲ 5.6

資料：財務省「貿易月表」

3 農産加工品

野菜部門

平成 21 年の野菜部門の輸出数量指数（平成 17 年=100）は、87.8 で、対前年比▲20.6%と大幅に低下した。また、平成 21 年の野菜部門の輸出額は、25 億円で、対前年比▲17.8%と大幅に減少した（図 3-37）。

品目別にみると、調製トマト、スイートコーンが大幅に増加し、ばれいしょがかなりの程度増加した。一方、野菜酢漬類、豆類、その他の野菜調製品が大幅に減少し、調製きのこがかなり大きく減少した（表 3-20）。

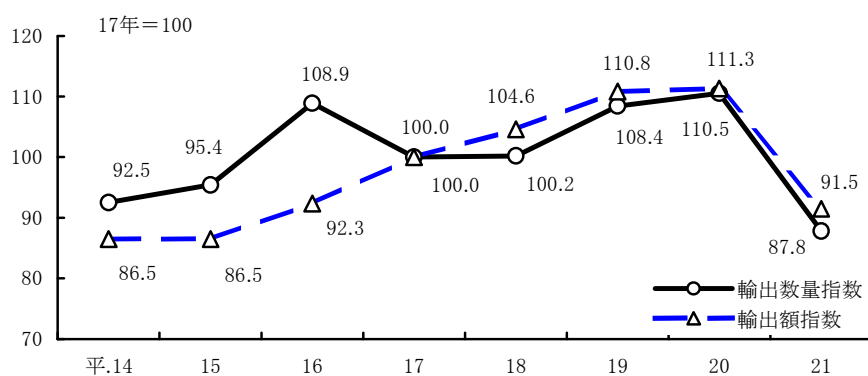
野菜酢漬類は大幅減少

平成 21 年の野菜酢漬類の輸出量は、対前年比▲21.9%と大幅に減少した。一方、調製トマトの輸出量は、対前年比 278.8%と大幅に増加した。

ばれいしょは増加も豆類、その他の野菜調製品は大幅減少

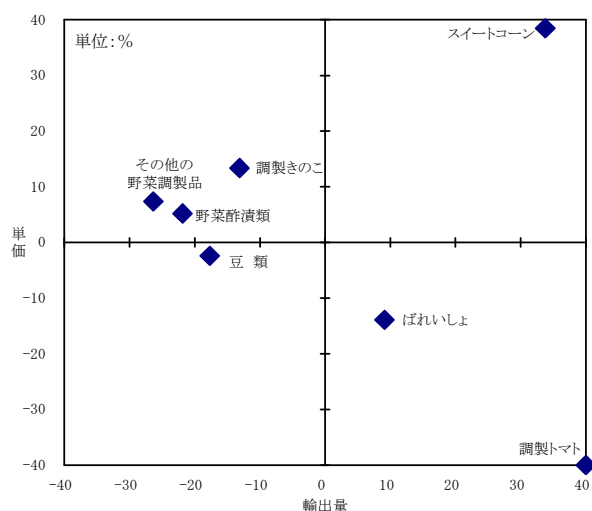
平成 21 年のばれいしょの輸出量は、対前年比 9.1%とかなりの程度増加した。一方、豆類の輸出量は、対前年比▲17.7%、その他の野菜調製品は、対前年比▲26.3%と大幅に減少した。

図3-37 野菜部門の輸出数量、輸出額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-38 農産加工品・野菜部門の輸出量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-20 農産加工品・野菜部門の輸出量の推移

品目	年次	輸出量 (トン)					単価 (円/kg)				
		17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
野菜酢漬類		1,069.4	1,066.5	1,104.7	1,126.2	880.0	419	425	416	432	454
調製トマト		41.1	43.4	5.7	20.1	76.1	167	429	471	471	101
調製きのこ		108.9	131.4	141.1	116.4	101.1	890	648	742	781	885
ばれいしょ		358.9	383.8	394.8	442.2	482.5	531	641	677	661	569
スイートコーン		16.7	28.4	39.7	32.5	43.5	590	476	482	381	528
アスパラガス		9.8	4.6	-	-	-	125	112	-	-	-
豆類		650.4	679.1	789.0	664.3	546.9	607	575	575	643	627
その他の野菜調製品		2,780.2	2,691.8	2,916.0	3,130.5	2,305.8	570	614	591	551	591
対前年増減率 (%)											
野菜酢漬類		▲ 4.5	▲ 0.3	3.6	1.9	▲ 21.9	27.4	1.4	▲ 2.2	3.9	5.2
調製トマト		75.1	5.7	▲ 87.0	254.4	278.8	▲ 22.9	155.9	9.9	▲ 0.1	▲ 78.6
調製きのこ		▲ 24.6	20.6	7.4	▲ 17.5	▲ 13.1	1.6	▲ 27.2	14.5	5.3	13.4
ばれいしょ		▲ 51.8	6.9	2.9	12.0	9.1	98.8	20.6	5.5	▲ 2.3	▲ 13.9
スイートコーン		67.9	69.8	39.7	▲ 18.0	33.8	21.9	▲ 19.3	1.4	▲ 21.0	38.5
アスパラガス		-	-	-	-	-	-	▲ 10.7	-	-	-
豆類		14.2	4.4	16.2	▲ 15.8	▲ 17.7	▲ 3.8	▲ 5.2	▲ 0.0	11.8	▲ 2.4
その他の野菜調製品		▲ 2.6	▲ 3.2	8.3	7.4	▲ 26.3	11.4	7.6	▲ 3.7	▲ 6.7	7.4

資料：財務省「貿易月表」

果実部門

平成 21 年の果実部門の輸出数量指数（平成 17 年=100）は、94.7 で、対前年比▲24.9%と大幅に低下した。また、平成 21 年の果実部門の輸出額は、13 億円で、対前年比▲12.8%とかなり大きく減少した（図 3-39）。

品目別にみると、桃調製品が大幅に増加し、その他の果実調製品がわずかに増加した。一方、かんきつ類が大幅に減少し、落花生がかなり大きく減少し、ナット調製品はかなりの程度減少し、ジャム・ゼリーはわずかに減少した（表 3-21）。

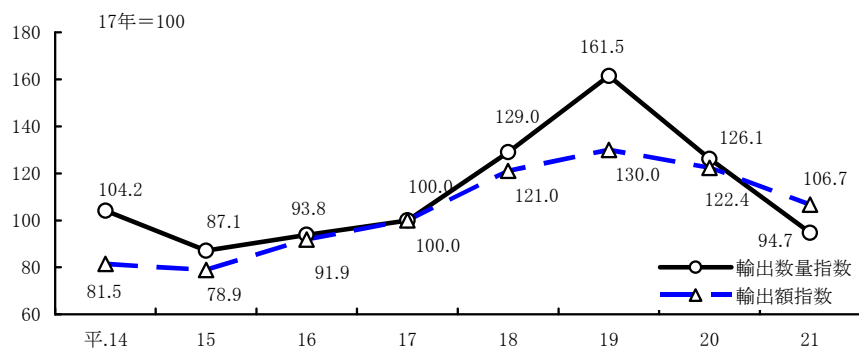
ナット調製品はかなりの程度減少

平成 21 年のナット調製品の輸出量は、対前年比▲7.0%とかなりの程度減少した。また、落花生の輸出量は、対前年比▲15.0%とかなり大きく減少した。

かんきつ類は大幅減、桃調製品は大幅増

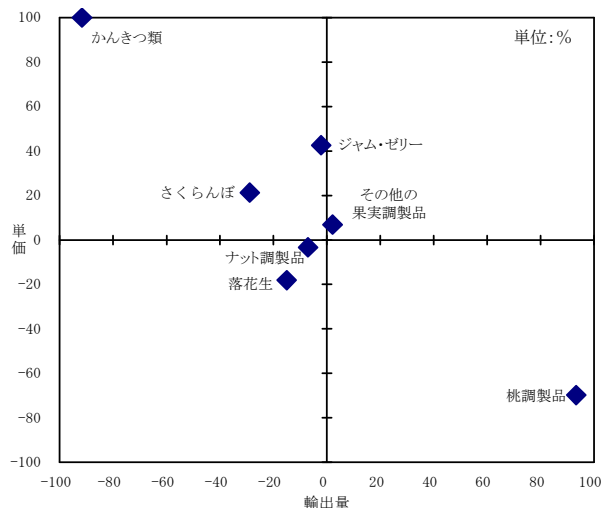
平成 21 年のかんきつ類の輸出量は、対前年比▲91.7%と大幅に減少した。一方、桃調製品の輸出量は、対前年比 93.3%と大幅に増加した。

図3-39 果実部門の輸出数量、輸出額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-40 農産加工品・果実部門の輸出量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-21 農産加工品・果実部門の輸出量の推移

品目	年次					年次				
	輸出量 (トン)					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
ジャム・ゼリー	23.7	24.2	22.9	19.6	19.2	712	601	670	542	774
落花生	50.4	131.9	150.3	146.8	124.7	613	617	724	745	610
ナット調製品	1,563.5	1,863.8	2,547.2	1,663.7	1,546.7	596	621	476	703	680
かんきつ類	33.9	133.3	104.8	206.4	17.1	1,538	541	567	266	970
なし調製品	-	-	50.6	3.0	-	-	-	118	931	-
あんず	-	2.3	-	0.2	-	-	1,615	-	1,310	-
さくらんぼ	-	4.4	-	1.8	1.3	-	152	-	1,314	1,595
桃調製品	10.7	3.4	39.1	9.7	18.7	352	697	120	751	226
ストロベリー	0.5	13.5	1.1	0.1	-	3,302	597	5,647	2,642	-
その他の果実調製品	774.2	325.2	533.7	380.1	388.4	181	258	221	220	235
対前年増減率 (%)										
ジャム・ゼリー	23.3	2.1	▲ 5.5	▲ 14.5	▲ 2.1	13.7	▲ 15.6	11.5	▲ 19.0	42.6
落花生	▲ 30.3	161.4	14.0	▲ 2.3	▲ 15.0	0.0	0.8	17.3	2.9	▲ 18.2
ナット調製品	19.4	19.2	36.7	▲ 34.7	▲ 7.0	▲ 2.6	4.3	▲ 23.4	47.7	▲ 3.3
かんきつ類	▲ 15.8	293.0	▲ 21.4	96.9	▲ 91.7	34.3	▲ 64.8	4.9	▲ 53.0	264.2
なし調製品	-	-	-	▲ 94.2	-	-	-	-	691.9	-
あんず	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
さくらんぼ	-	-	-	-	▲ 28.9	-	-	-	-	21.3
桃調製品	▲ 49.6	▲ 68.6	1062.6	▲ 75.2	93.3	39.7	98.0	▲ 82.8	527.5	▲ 69.9
ストロベリー	▲ 84.0	2582.7	▲ 91.8	▲ 90.2	-	25.6	▲ 81.9	846.2	▲ 53.2	-
その他の果実調製品	▲ 24.5	▲ 58.0	64.1	▲ 28.8	2.2	13.4	42.0	▲ 14.2	▲ 0.2	6.9

資料：財務省「貿易月表」

4 製穀粉加工品

平成 21 年の製穀粉加工品の輸出数量指数（平成 17 年=100）は、108.3 で、対前年比▲11.7%とかなり大きく低下した。また、平成 21 年の製穀粉加工品の輸出額は、125 億円で、対前年比▲8.6%とかなりの程度減少した（図 3-41）。

品目別にみると、その他のパスタ、食パン・乾パン類、その他の穀物加工品が大幅に増加し、パスタがかなりの程度増加した。一方、穀粉調製品、インスタントラーメン、詰物パスタが大幅に減少し、朝食用シリアルがかなりの程度減少し、うどん・そうめん・そばがやや減少し、その他のめん類がわずかに減少した（表 3-22）。

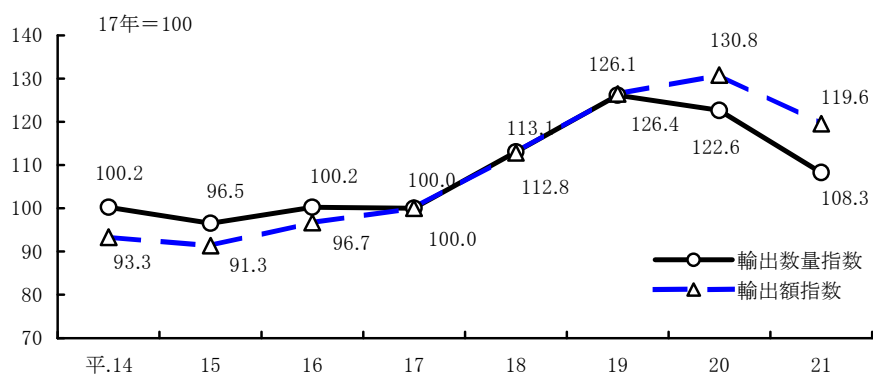
うどん・そば・そうめんはやや減少、インスタントラーメン、穀粉調製品は大幅減

平成 21 年のうどん・そば・そうめん・そばの輸出量は、対前年比▲4.6%とやや減少した。また、インスタントラーメンは対前年比▲23.7%、穀粉調製品は対前年比▲21.5%と大幅に減少した。

パスタはかなりの程度増加、その他のパスタは大幅増加

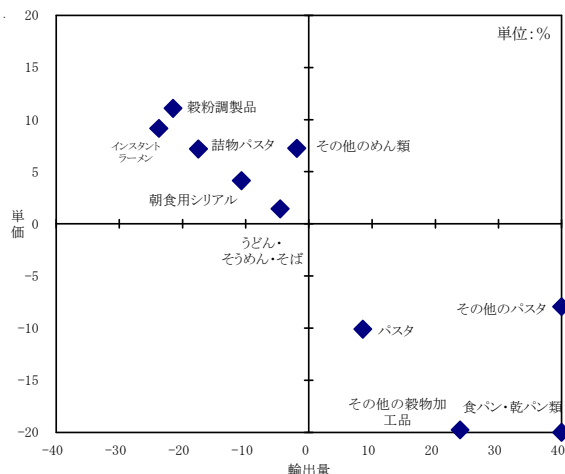
平成 21 年のパスタの輸出量は、対前年比 8.6%とかなりの程度増加し、その他のパスタは対前年比 43.6%と大幅に増加した。

図3-41 製穀粉加工品の輸出数量、輸出額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-42 製穀粉加工品の輸出量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-22 製穀粉加工品の輸出量の推移

品目	年次		輸出量 (トン)					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年		
穀粉調製品	10,873.5	11,303.4	13,135.3	13,266.7	10,415.0	317	322	327	355	394		
パスタ	1,133.0	1,267.9	1,217.7	831.4	902.5	127	127	142	230	207		
インスタントラーメン	8,445.1	9,091.2	9,200.1	8,120.0	6,192.1	381	394	396	432	472		
うどん・そうめん・そば	7,863.3	10,064.9	12,560.5	12,517.1	11,946.7	262	246	238	258	262		
その他のめん類	854.6	1,112.8	1,070.1	1,057.2	1,037.0	435	390	416	440	472		
詰物パスタ	443.2	737.5	508.5	460.4	379.9	640	555	658	631	676		
その他のパスタ	573.2	709.4	1,147.4	2,317.3	3,326.9	258	265	233	201	185		
朝食用シリアル	300.7	359.3	533.4	468.7	418.6	737	926	888	811	844		
食パン・乾パン類	3.0	4.5	5.8	2.1	29.8	465	582	605	649	404		
その他の穀物加工品	819.0	830.6	856.9	633.9	785.6	676	677	677	689	552		
対前年増減率 (%)												
穀粉調製品	▲ 2.6	4.0	16.2	1.0	▲ 21.5	5.1	1.4	1.7	8.4	11.1		
パスタ	233.3	11.9	▲ 4.0	▲ 31.7	8.6	▲ 14.5	▲ 0.4	11.5	62.5	▲ 10.1		
インスタントラーメン	1.9	7.7	1.2	▲ 11.7	▲ 23.7	10.8	3.6	0.4	9.0	9.2		
うどん・そうめん・そば	1.9	28.0	24.8	▲ 0.3	▲ 4.6	0.8	▲ 6.2	▲ 3.3	8.4	1.4		
その他のめん類	▲ 10.8	30.2	▲ 3.8	▲ 1.2	▲ 1.9	9.6	▲ 10.3	6.7	5.7	7.2		
詰物パスタ	▲ 16.5	66.4	▲ 31.0	▲ 9.5	▲ 17.5	5.5	▲ 13.2	18.4	▲ 4.1	7.2		
その他のパスタ	▲ 26.2	23.8	61.7	102.0	43.6	6.1	3.0	▲ 12.1	▲ 13.8	▲ 7.9		
朝食用シリアル	11.4	19.5	48.4	▲ 12.1	▲ 10.7	20.0	25.6	▲ 4.1	▲ 8.7	4.1		
食パン・乾パン類	-	48.0	29.8	▲ 63.5	1306.3	-	25.4	3.9	7.2	▲ 37.7		
その他の穀物加工品	0.1	1.4	3.2	▲ 26.0	23.9	▲ 28.4	0.2	▲ 0.0	1.8	▲ 19.8		

資料：財務省「貿易月表」

5 糖類

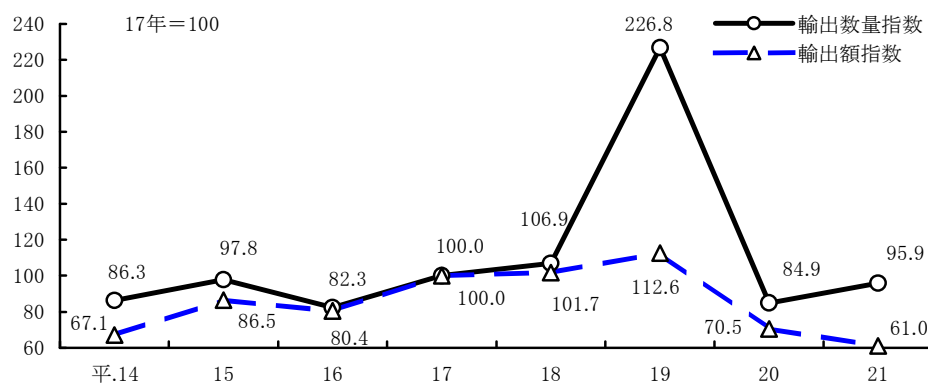
平成 21 年の糖類の輸出数量指数（平成 17 年=100）は、95.9 で、対前年比 12.8% とかなり大きく上昇した。また、平成 21 年の糖類の輸出額は、15 億円で、対前年比▲13.5% とかなり大きく減少した。（図 3-43）。

品目別にみると、粗糖、糖みつが大幅に増加した。一方、ぶどう糖類が大幅に減少し、その他の糖類がかなり大きく減少した（表 3-23）。

糖みつは大幅に増加

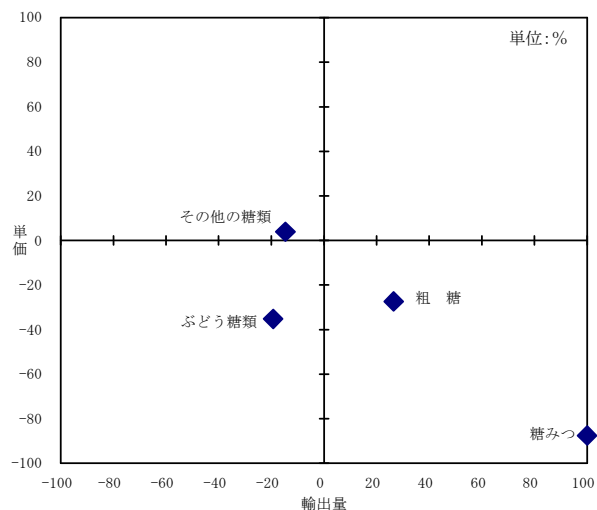
平成 21 年の糖みつの輸出量は、対前年比 2,447.1%、粗糖は、対前年比 26.5% と大幅に増加した。一方、ぶどう糖類の輸出量は、対前年比▲19.3% と大幅に減少し、その他の糖類は、対前年比▲14.6% とかなり大きく減少した。

図3-43 糖類の輸出数量、輸出額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-44 糖類の輸出量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-23 糖類の輸出量の推移

品目	年次					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
粗糖	58.0	30.0	8,050.0	34.0	43.0	334	516	32	746	541
糖みつ	73.0	77.0	71.0	172.0	4,381.0	137	116	94	91	11
ぶどう糖類	639.3	504.8	518.7	545.9	440.4	883	1,211	1,398	371	240
その他の糖類	4,410.2	5,126.8	5,593.7	3,715.6	3,171.9	410	353	306	390	406
チューインガム	1283.9	1542.2	1601.7	1487.8	1448.8	656	620	668	728	669
キャンディー類	4313.1	4353.2	4691.7	4824.7	3693.4	810	839	819	874	924
他の砂糖菓子	1667.1	1515.4	1700.6	1524.8	1026.9	1026	835	756	826	907
対前年増減率 (%)										
粗糖	▲31.8	▲48.3	26,733.3	▲99.6	26.5	27.2	54.7	▲93.7	2,203.4	▲27.4
糖みつ	▲9.9	5.5	▲7.8	142.3	2,447.1	▲31.0	▲14.9	▲18.7	▲3.3	▲87.6
ぶどう糖類	13.0	▲21.0	2.8	5.2	▲19.3	19.3	37.2	15.4	▲73.5	▲35.2
その他の糖類	25.8	16.2	9.1	▲33.6	▲14.6	▲2.4	▲14.0	▲13.2	27.5	3.9

6 菓子

平成 21 年の菓子の輸出数量指数（平成 17 年=100）は、87.4 で、対前年比▲21.9%と大幅に低下した。また、平成 21 年の菓子の輸出額は、150 億円で、対前年比▲17.9%と大幅に減少した（図 3-45）。

品目別にみると、ココア粉がかなり大きく増加した。一方、キャンディー類、他の砂糖菓子、チョコレート菓子、チョコレート・ココア調製品、ビスケット・クラッカー、その他の菓子が大幅に減少し、あられ・せんべいがかなり大きく減少し、チューインガムがわずかに減少した（表 3-24）。

チョコレート・ココア調製品、チョコレート菓子は大幅減

平成 21 年のチョコレート・ココア調製品の輸出量は、対前年比▲24.5%と大幅に減少し、チョコレート菓子も対前年比▲18.6%と大幅に減少した。チョコレート・ココア調製品は昨年引き続き大幅に減少した。

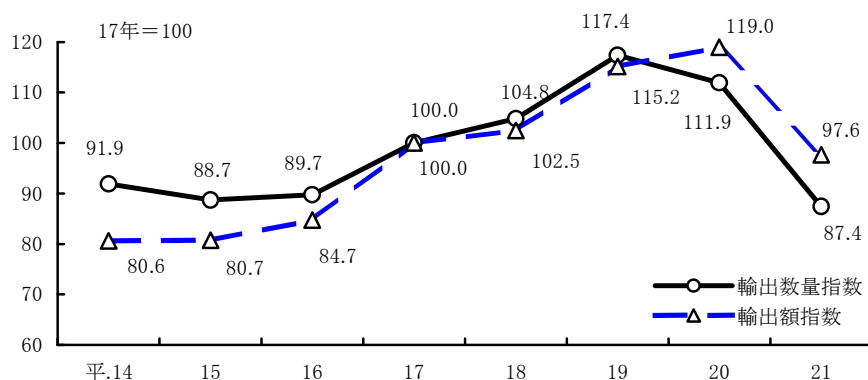
キャンディー類、他の砂糖菓子は大幅減

平成 21 年のキャンディー類の輸出量は、対前年比▲23.4%と大幅に減少し、他の砂糖菓子も対前年比▲32.7%と大幅に減少した。

ビスケット・クラッカーは大幅減、あられ・せんべいはかなり大きく減

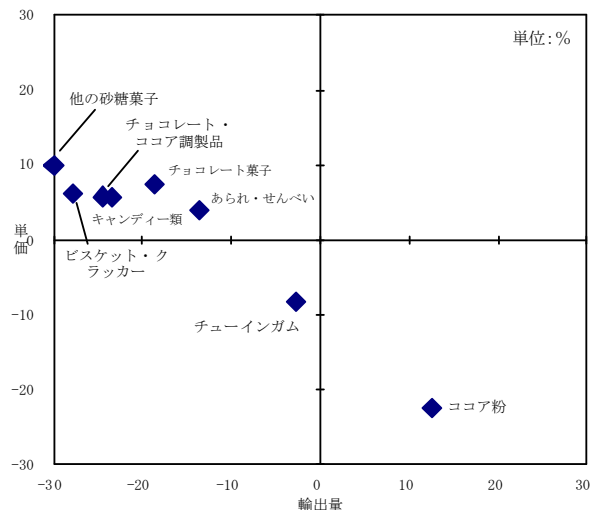
平成 21 年のビスケット・クラッカーの輸出量は、対前年比▲27.9%と大幅に減少し、あられ・せんべいは対前年比▲13.6%とかなり大きく減少した。

図3-45 菓子の輸出数量、輸出額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-46 菓子の輸出量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-24 菓子の輸出量の推移

品目	年次	輸出量 (トン)					単価 (円/kg)				
		17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
チューインガム		1,283.9	1,542.2	1,601.7	1,487.8	1,448.8	656	620	668	728	669
キャンディー類		4,313.1	4,353.2	4,691.7	4,824.7	3,693.4	810	839	819	874	924
他の砂糖菓子		1,667.1	1,515.4	1,700.6	1,524.8	1,026.9	1,026	835	756	826	907
チョコレート菓子		1,424.2	836.2	731.0	707.3	575.7	910	1,099	1,196	1,290	1,387
ココア粉		98.4	111.6	178.0	160.0	180.0	2,325	2,412	2,234	2,280	1,769
チョコレート・ココア調製品		2,769.1	4,121.3	4,815.0	3,910.2	2,952.7	933	898	955	1,075	1,138
あられ・せんべい		3,558.7	3,614.0	3,830.9	3,988.1	3,447.3	707	741	778	833	865
ビスケット・クラッカー		810.4	928.9	1,287.9	1,552.8	1,119.8	1,050	1,039	1,006	1,016	1,079
その他の菓子		1,814.6	1,597.2	1,783.5	1,614.7	1,115.7	1,036	860	782	857	945
対前年増減率 (%)											
チューインガム		11.8	20.1	3.9	▲ 7.1	▲ 2.6	8.2	▲ 5.6	7.7	9.1	▲ 8.2
キャンディー類		13.2	0.9	7.8	2.8	▲ 23.4	1.3	3.6	▲ 2.4	6.7	5.8
他の砂糖菓子		0.6	▲ 9.1	12.2	▲ 10.3	▲ 32.7	23.5	▲ 18.6	▲ 9.5	9.2	9.8
チョコレート菓子		61.3	▲ 41.3	▲ 12.6	▲ 3.2	▲ 18.6	▲ 4.5	20.9	8.8	7.9	7.6
ココア粉		16.3	13.3	59.5	▲ 10.1	12.5	4.9	3.7	▲ 7.4	2.0	▲ 22.4
チョコレート・ココア調製品		21.0	48.8	16.8	▲ 18.8	▲ 24.5	▲ 5.6	▲ 3.7	6.4	12.6	5.8
あられ・せんべい		6.4	1.6	6.0	4.1	▲ 13.6	4.2	4.8	5.0	7.1	3.8
ビスケット・クラッカー		▲ 8.3	14.6	38.6	20.6	▲ 27.9	14.6	▲ 1.0	▲ 3.2	1.0	6.2
その他の菓子		1.6	▲ 12.0	11.7	▲ 9.5	▲ 30.9	19.1	▲ 17.0	▲ 9.0	9.6	10.2

資料：財務省「貿易月表」

7 飲料

平成 21 年の飲料の輸出数量指数（平成 17 年=100）は、91.2 で、対前年比▲55.5%と大幅に低下した。また、平成 21 年の飲料の輸出額は、77 億円で、対前年比▲53.7%と大幅に減少した（図 3-47）。

品目別にみると、トマトジュースが大幅に増加し、野菜ジュースがやや増加した。一方、清涼飲料、他のかんきつ果汁、ぶどう果汁、インスタントコーヒーが大幅に減少し、りんご果汁がかなりの程度減少し、グレープフルーツ果汁、オレンジ果汁がやや減少し、混合ジュースがわずかに減少した（表 3-25）。

清涼飲料、インスタントコーヒーは大幅に減少

平成 21 年の清涼飲料の輸出量は、対前年比▲65.0%と大幅に減少した。昨年まで数年間 2 桁の伸びが続いていたが、今年は大幅に減少した。また、インスタントコーヒーも対前年比▲34.9%と大幅に減少した。

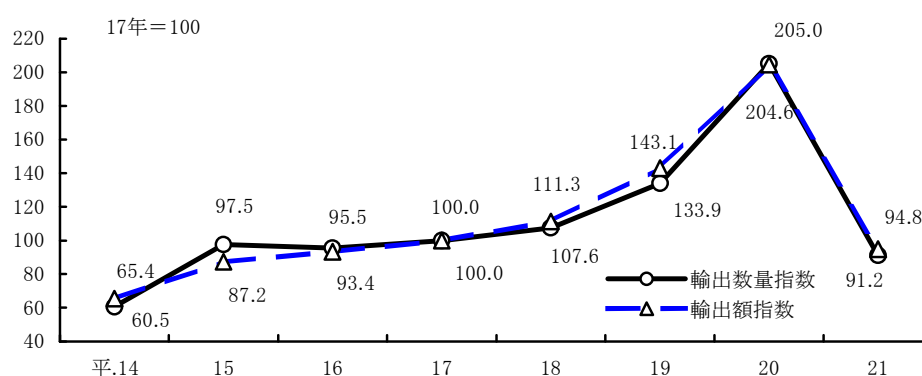
トマトジュースは大幅増加、野菜ジュースはやや増加

平成 21 年のトマトジュースの輸出量は、対前年比 778.7%と大幅に増加した。また、野菜ジュースは対前年比 5.3%とやや増加した。

果汁系飲料は軒並み減少

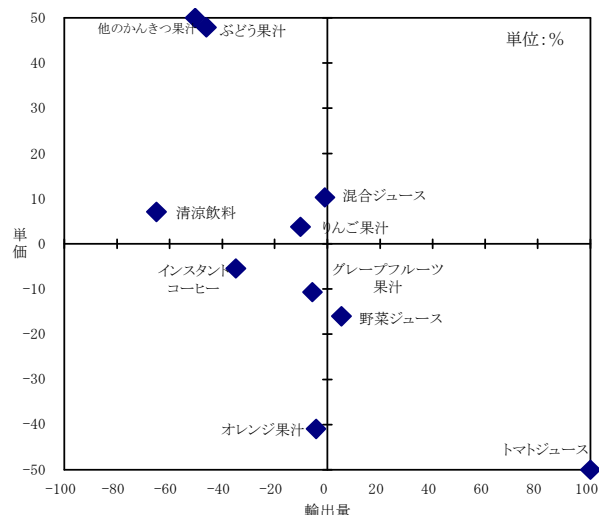
平成 21 年のグレープフルーツ果汁の輸出量は、対前年比▲5.7%とやや減少、また、オレンジ果汁も対前年比▲4.3%とやや減少した。さらに、りんご果汁は、対前年比▲10.3%とかなりの程度減少し、他のかんきつ果汁は、対前年比▲50.3%と大幅に減少した。

図3-47 飲料の輸出数量、輸出額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-48 飲料の輸出量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-25 飲料の輸出量の推移

品目	年次					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
オレンジ果汁	2,299.9	131.2	103.9	168.3	161.1	161	337	411	327	193
グレープフルーツ果汁	238.6	262.4	237.0	240.3	226.7	1,026	965	1,054	1,024	915
他のかんきつ果汁	19.7	32.1	36.0	76.7	38.1	1,673	1,280	1,822	1,178	2,097
パイナップル果汁	4.6	1.0	1.1	2.5	-	859	877	345	226	-
ぶどう果汁	15.6	12.7	39.5	47.2	25.5	294	424	363	409	605
りんご果汁	123.6	81.5	146.2	279.1	250.5	324	304	483	270	281
トマトジュース	72.6	11.7	26.1	13.6	119.9	161	320	223	244	34
野菜ジュース	125.0	389.3	149.6	156.4	164.8	715	833	980	613	515
混合ジュース	703.3	348.4	531.2	412.6	408.6	199	240	221	203	224
清涼飲料	25,029.5	30,451.0	35,826.2	50,594.1	17,714.4	237	231	237	222	237
インスタントコーヒー	1,192.9	755.3	1,707.9	3,778.4	2,461.0	1,044	1,593	1,407	1,243	1,175
対前年増減率 (%)										
オレンジ果汁	29.4	▲94.3	▲20.8	62.0	▲4.3	28.3	109.4	22.0	▲20.5	▲40.9
グレープフルーツ果汁	2.7	10.0	▲9.7	1.4	▲5.7	7.4	▲5.9	9.2	▲2.8	▲10.7
他のかんきつ果汁	18.2	63.0	12.2	112.9	▲50.3	▲4.8	▲23.5	42.3	▲35.4	78.1
パイナップル果汁	19.5	▲79.2	18.4	118.7	-	▲17.4	2.0	▲60.7	▲34.6	-
ぶどう果汁	59.2	▲18.4	211.2	19.5	▲46.0	▲40.5	44.4	▲14.4	12.6	47.9
りんご果汁	112.3	▲34.1	79.5	90.9	▲10.3	46.5	▲6.1	58.7	▲44.0	3.8
トマトジュース	32.4	▲83.9	123.2	▲47.8	778.7	11.3	99.0	▲30.5	9.6	▲86.0
野菜ジュース	▲0.4	211.4	▲61.6	4.5	5.3	12.7	16.5	17.7	▲37.5	▲16.0
混合ジュース	▲18.5	▲50.5	52.5	▲22.3	▲1.0	6.9	20.6	▲8.2	▲8.0	10.3
清涼飲料	17.6	21.7	17.7	41.2	▲65.0	▲3.7	▲2.4	2.4	▲6.4	7.1
インスタントコーヒー	▲32.9	▲36.7	126.1	121.2	▲34.9	16.1	52.6	▲11.7	▲11.6	▲5.4

資料：財務省「貿易月表」

8 調味料

平成 21 年の調味料の輸出数量指数（平成 17 年=100）は、105.0 で、対前年比▲0.9%と前年並みであった。また、平成 21 年の調味料の輸出額は、271 億円で、対前年比 2.0%とわずかに増加した（図 3-49）。

品目別にみると、その他のソース・調味料がわずかに増加した。一方、ケチャップ・マスタード類、うま味調味料が大幅に減少し、醤油がかなりの程度減少し、食酢類がやや減少した（表 3-26）。

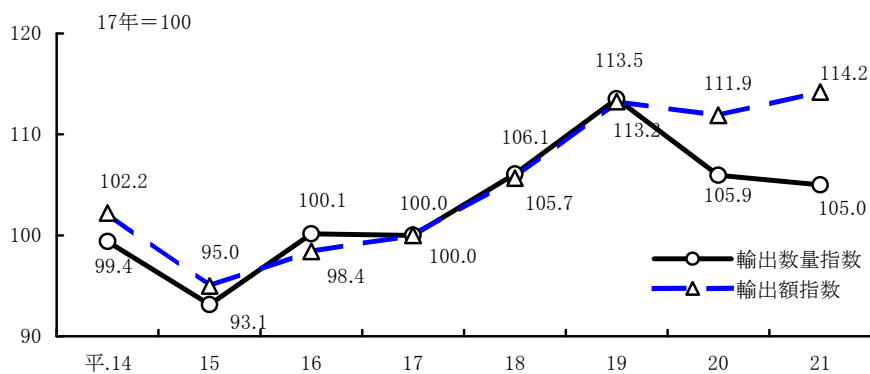
醤油、味噌、食酢類は減少に転じる

平成 21 年の醤油の輸出量は、対前年比▲6.7%とかなりの程度減少した。また、食酢類は対前年比▲3.7%とやや減少し、味噌は対前年比▲0.6%と前年並みであった。醤油、食酢類、味噌は、ここ数年、輸出量を伸ばしていたが、今年は減少に転じた。

ケチャップ・マスタード類、うま味調味料は大幅減

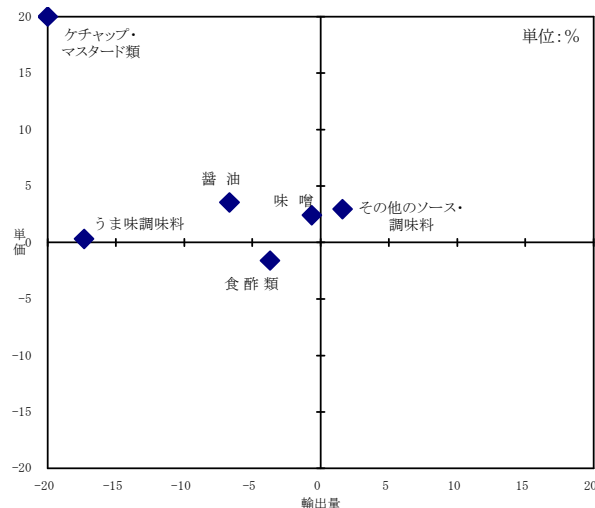
平成 21 年のケチャップ・マスタード類の輸出量は、対前年比▲55.7%と大幅に減少し、うま味調味料も対前年比▲17.3%と大幅に減少した。

図3-49 調味料の輸出数量、輸出額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-50 調味料の輸出量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-26 調味料の輸出量の推移

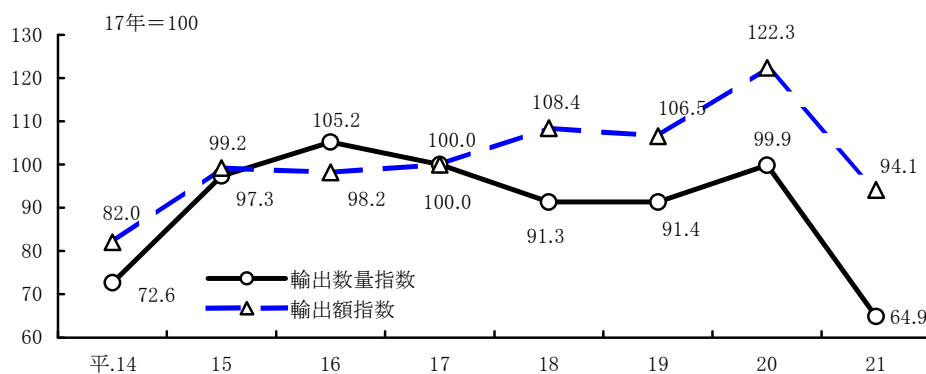
品目	年次					年次				
	輸出量 (トン)					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
醤油	17,367.7	19,335.2	19,908.9	22,240.6	20,754.9	180	180	193	185	191
ケチャップ・マスタード類	442.0	442.8	390.9	406.5	180.1	404	389	438	406	564
うま味調味料	498.9	685.3	419.2	343.2	283.8	1,305	791	985	1,102	1,105
味噌	7,754.7	8,746.5	9,252.0	9,882.0	9,817.9	206	203	198	201	206
食酢類	8,116.1	9,292.2	10,408.3	10,762.6	10,363.7	132	138	133	133	131
その他のソース・調味料	37,409.2	40,422.0	42,349.4	37,330.5	37,930.3	458	455	454	495	510
対前年増減率 (%)										
醤油	13.0	11.3	3.0	11.7	▲ 6.7	▲ 4.9	0.0	7.4	▲ 4.6	3.5
ケチャップ・マスタード類	7.8	0.2	▲ 11.7	4.0	▲ 55.7	11.6	▲ 3.7	12.4	▲ 7.2	38.7
うま味調味料	3.1	37.4	▲ 38.8	▲ 18.1	▲ 17.3	54.1	▲ 39.4	24.6	11.9	0.3
味噌	6.6	12.8	5.8	6.8	▲ 0.6	0.0	▲ 1.5	▲ 2.3	1.8	2.4
食酢類	5.6	14.5	12.0	3.4	▲ 3.7	▲ 5.6	4.3	▲ 3.7	0.6	▲ 1.6
その他のソース・調味料	▲ 3.3	8.1	4.8	▲ 11.9	1.6	2.2	▲ 0.6	▲ 0.1	9.0	2.9

資料：財務省「貿易月表」

9 加工油脂

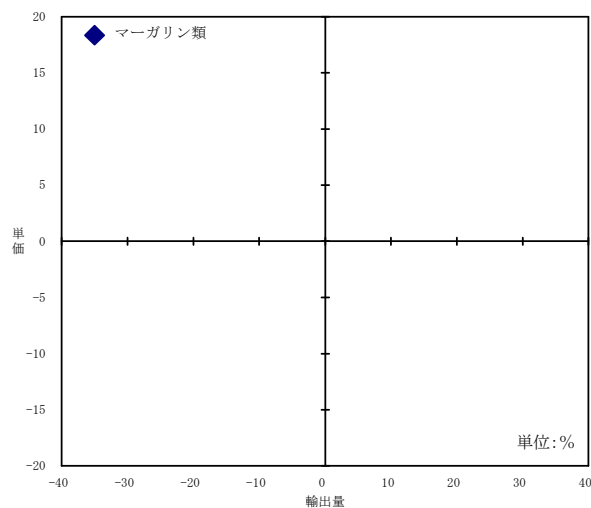
平成 21 年の加工油脂の輸出数量指数（平成 17 年=100）は、64.9 で、対前年比▲35.0%と大幅に低下した。また、平成 21 年の加工油脂の輸出額は、2 億円で、対前年比▲23.1%と大幅に減少した（図 3-51）。

図3-51 加工油脂の輸出数量、輸出額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-52 加工油脂の輸出量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-27 加工油脂の輸出量の推移

品目	年次	輸出量 (トン)					単価 (円/kg)				
		17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
マーガリン類		914.4	834.7	835.4	913.1	593.4	286	339	333	350	414
対前年増減率 (%)											
マーガリン類		▲ 4.9	▲ 8.7	0.1	9.3	▲ 35.0	7.1	18.8	▲ 1.8	5.0	18.4

資料：財務省「貿易月表」

10 その他調製食料品

平成21年のその他の調製食料品の輸出数量指数（平成17年=100）は、134.8で、対前年比2.9%とわずかに上昇した。また、平成21年のその他の調製食料品の輸出額は、475億円で、対前年比13.0%とかなり大きく増加した（図3-53）。

品目別にみると、育児用調製品、栄養補助食品が大幅に増加し、茶をもととした調製品がかなりの程度増加し、酵母・イーストがわずかに増加した。一方、たんぱく質調製品、その他調製品がかなりの程度減少し、スープ類がわずかに減少した（表3-28）。

育児用調製品は続伸

平成21年の育児用調製品の輸出量は、対前年比133.6%と大幅に増加した。育児用調製品の輸出量はここ数年、急激に増加している。

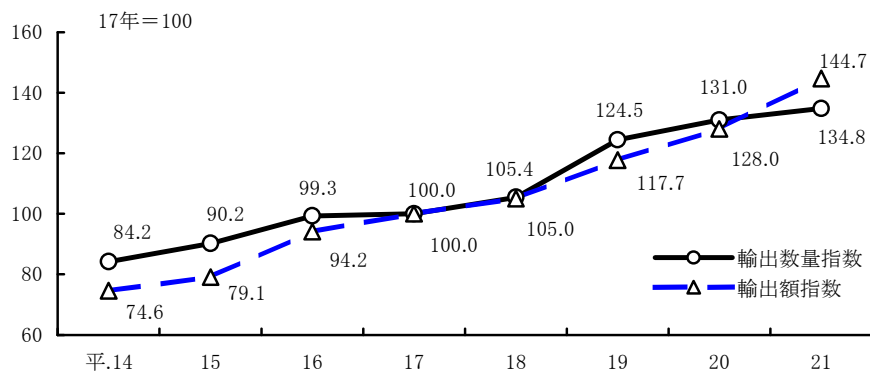
たんぱく質調製品はかなりの程度減少

平成21年のたんぱく質調製品の輸出量は、対前年比▲8.4%とかなりの程度減少した。

スープ類は減少に転じる

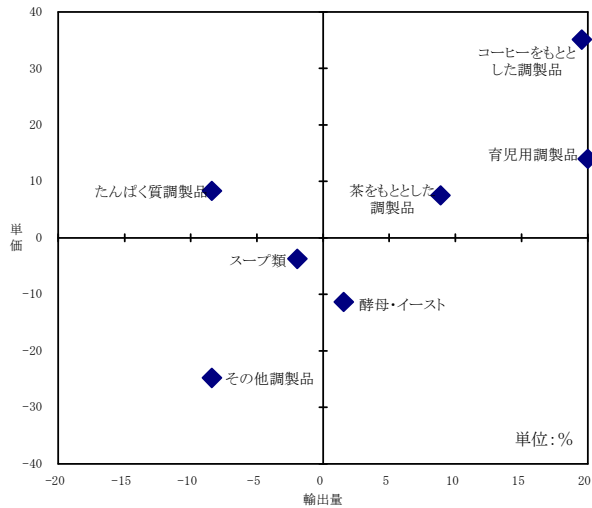
平成21年のスープ類の輸出量は、対前年比▲1.9%とわずかに減少した。ここ数年、増加傾向にあったが、今年減少に転じた。

図3-53 その他の調製食料品の輸出数量、輸出額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-54 その他の調製食料品の輸出量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-28 その他の調製食料品の輸出量の推移

品目	年次					輸出量 (トン)					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
育児用調製品	320.4	483.5	1,320.0	2,843.9	6,644.1	1,046	1,159	1,140	1,242	1,416					
酵母・イースト	858.9	642.1	580.8	569.3	578.2	2,896	3,298	3,735	3,297	2,923					
スープ類	4,482.2	4,909.5	6,047.7	6,447.1	6,321.5	765	798	756	757	729					
たんぱく質調製品	18,274.0	20,203.2	23,801.1	24,122.7	22,095.3	1,350	1,304	1,222	1,254	1,358					
栄養補助食品	454.5	439.9	540.5	445.0	532.0	537	611	535	466	630					
茶をもととした調製品	2,108.6	1,023.9	1,129.1	1,109.7	1,208.2	538	829	768	1,096	1,179					
その他調製品	1,501.0	1,205.8	430.0	140.3	128.5	359	362	385	551	414					
対前年増減率 (%)															
育児用調製品		13.4	50.9	173.0	115.4	133.6	7.6	10.8	▲1.6	8.9	14.0				
酵母・イースト		▲8.6	▲25.2	▲9.5	▲2.0	1.6	3.0	13.9	13.3	▲11.7	▲11.4				
スープ類		5.3	9.5	23.2	6.6	▲1.9	2.5	4.3	▲5.2	0.0	▲3.7				
たんぱく質調製品		1.9	10.6	17.8	1.4	▲8.4	3.6	▲3.4	▲6.3	2.6	8.3				
栄養補助食品		6.7	▲3.2	22.9	▲17.7	19.6	13.5	13.8	▲12.5	▲12.8	35.1				
茶をもととした調製品		40.2	▲51.4	10.3	▲1.7	8.9	24.6	54.0	▲7.3	42.7	7.5				
その他調製品		▲4.0	▲19.7	▲64.3	▲67.4	▲8.4	▲6.5	0.8	6.2	43.3	▲24.8				

資料：財務省「貿易月表」

1.1 酒類

平成21年の酒類の輸出数量指数（平成17年=100）は、113.3で、対前年比5.2%とやや上昇した。また、平成21年の酒類の輸出額は、160億円で、対前年比▲5.4%とやや減少した（図3-55）。

品目別にみると、その他の酒類が大幅に増加し、ウイスキーがかなり大きく増加した。一方、ブランデーが大幅に減少し、ビールがかなり大きく減少し、リキュール類がやや減少し、清酒がわずかに減少した（表3-29）。

清酒は減少に転じる

平成21年の清酒の輸出量は、対前年比▲1.7%とわずかに減少した。清酒はここ数年、毎年1割近い伸びを示していたが、今年はやや減少に転じた。

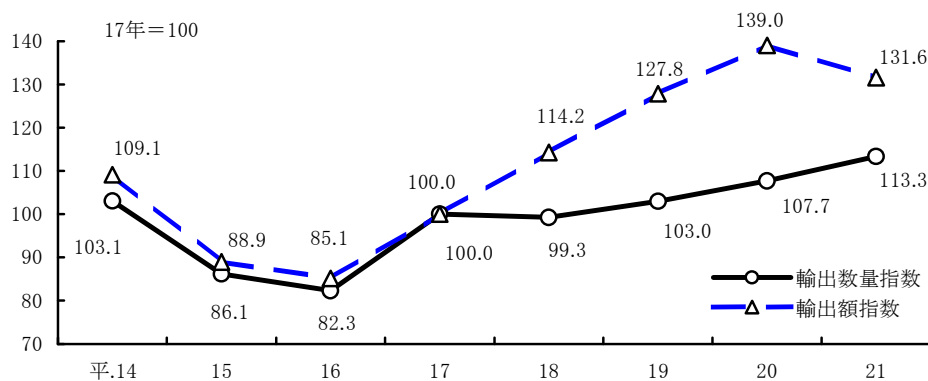
ビールはかなり大きく減少

平成21年のビールの輸出量は、対前年比▲11.1%とかなり大きく減少した。

ウイスキーは引き続き増加、リキュール類は減少

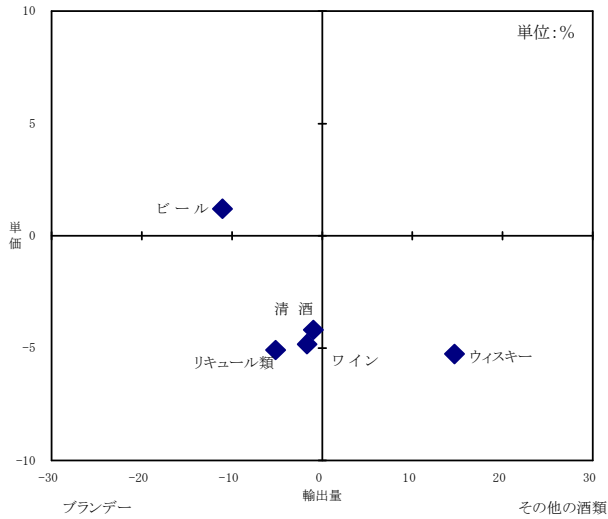
平成21年のウイスキーの輸出量は、対前年比14.7%とかなり大きく増加した。一方、リキュール類は、対前年比▲5.2%とやや減少した。減少傾向が続いていたウイスキーは20年に増加に転じ、今年も引き続き増加した。

図3-55 酒類の輸出数量、輸出額の推移



資料：財務省「貿易月表」より作成

図3-56 酒類の輸出量と単価の増減率(21年/20年)



資料：財務省「貿易月表」

表3-29 酒類の輸出量の推移

品目	輸出量 (トン)					単価 (円/kg)				
	17年	18年	19年	20年	21年	17年	18年	19年	20年	21年
ビール	18,080.8	27,028.7	23,130.1	23,526.2	20,925.2	107	107	122	127	129
ワイン	371.5	462.0	342.6	370.3	366.7	525	468	701	636	610
ブランデー	29.0	31.3	60.9	34.3	24.2	4,339	8,611	9,140	9,311	3,089
ウイスキー	933.1	915.0	914.1	1,038.4	1,190.8	977	1,169	1,304	1,376	1,303
清酒	9,537.1	10,268.5	11,333.6	12,151.4	11,949.1	560	595	622	632	601
リキュール類	1,858.2	2,434.0	2,710.0	2,793.7	2,649.4	706	554	585	590	560
その他の酒類	27,378.4	5,356.4	5,518.0	5,495.0	17,970.1	87	377	389	481	157
対前年増減率 (%)										
ビール	▲ 10.7	49.5	▲ 14.4	1.7	▲ 11.1	1.3	▲ 0.1	13.6	4.7	1.2
ワイン	▲ 10.1	24.4	▲ 25.9	8.1	▲ 1.0	7.3	▲ 10.9	49.8	▲ 9.3	▲ 4.2
ブランデー	751.3	7.9	94.5	▲ 43.7	▲ 29.6	16.7	98.4	6.1	1.9	▲ 66.8
ウイスキー	▲ 13.1	▲ 1.9	▲ 0.1	13.6	14.7	10.4	19.6	11.6	5.5	▲ 5.3
清酒	8.4	7.7	10.4	7.2	▲ 1.7	8.6	6.2	4.6	1.6	▲ 4.8
リキュール類	4.8	31.0	11.3	3.1	▲ 5.2	15.5	▲ 21.6	5.7	0.9	▲ 5.1
その他の酒類	481.4	▲ 80.4	3.0	▲ 0.4	227.0	▲ 71.9	336.0	3.1	23.6	▲ 67.3

資料：財務省「貿易月表」